678.222
678.222
I122s2
00039524

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak

進呈

世界貿易上より觀たる

上海と長江

著者

39524

678.222
I122 A2

自序

一、本書は曾て大正七年八月一日より起稿して、上海經濟時報誌上に「上海の近き將來」と題し連載したるものなるが、友人の慫慂により、今單行本として識者の間に頒つ事としたり。

一、單行本として編輯する際には、上海經濟時報に掲載したるものに二三の點を增補せし所あり。又本問題に直接の關係なきも、支那問題としては興味多き上海の行政、敎育等に關するものも蒐錄せり。

一、元來本論は上海を中心とし、上海が如何に發展し行くべきかに就きて稿を起したるものなるが、上海の將來をトするには勢ひ上海と支那、上海と世界各地との關係に亘りても論ずるを要し、所論支那幷に世界に於ける上海の地位、上海と長江との關係に及ぶに至り、表題を「世界貿易上より觀たる上海と長江」とする方、一層內容に適切なるを認め改むる事にしたり。

一、事廣汎に亘るが故に、自ら特殊問題に就て詳細なる事を述べざりき。併しなが

39524

ら、中部支那幷に上海の將來に關して特殊問題を捉ふる事勿論必要なるべきも、各問題に就き一般的に大體の連絡を知る事の更に肝要なるべきを思ひ、各問題相互間の關係を明かにする事に努めたり。

固より公私多忙の際口述して掲載したるものなれば精確を保し難し、識者の教を乞ふて他日完成の時を待つもの也。

大正八年正月

上海ゼスフイールド郊外に於て

著者識

貿易上より觀たる上海と長江

目次

第一章　上海貿易の發展可能力……一
第二章　揚子江流域の水陸交通系統……六
第三章　交通機關の發達と勞働問題……一八
第四章　長江流域に於ける事業……二四
第一　農業……二四
第二　鑛業……二七
第三　製造業……二九
第五章　世界交通上より觀たる上海……三一
第六章　上海は東洋各港間の貿易の中心である……三八
第七章　船型の趨勢……四一
第一　大船主義と小船主義
第二　標準型主義と特殊型主義
第八章　汽船と港灣との關係……四五

第九章　上海築港問題……四八
第十章　支那人の企業力……六四
第十一章　結論……對支那貿易策……六八
附錄一　上海の市政……七五
第一節　創業時代……七六
第二節　混沌時代……八〇
第三節　現制時代……八七
第四節　市の將來……九〇
附錄二　上海共同租界の兒童教育……九五
附錄三　上海に於ける日本語の普及……一〇一
附錄四　支那に於ける列强と其教育事業……一〇五
第一節　序論……一〇五
第二節　米國……一〇七
第三節　英國……一一〇
第四節　獨逸……一一三
第五節　佛蘭西……一一九
第六節　結論……一二四

世界貿易上より見たる上海と長江

伊吹山德司著

第一章　上海貿易の發展可能力

余は大正七年八月一日上海經濟時報一週年紀念號に於て「上海の將來」と題し其の有する揚子江と幷に世界交通上との關係に立論して、上海の將來に於ける發展を豫測し、些か私見を發表する處あつたが、所謂將來なる字句は極めて漠然であつて、其の見當を那邊にも求めなかつたので、本章に於ては更に進んで將來の見當を限定したる上、上海の發展の程度如何を、もう少し具體的に詳論したいと思ふのである。

先づ、余の所謂將來を、向後二十年乃至三十年、少くとも余等の生存中に目睹し

得べき將來に制限し、其の近き將來に於ける發展の程度を考察するのであるが夫には上海の商業的勢力範圍である處の、揚子江流域に於ける其富源と人口との關係を究明する必要がある。

抑も上海の外國貿易の數額を日本に比較して、頭割に計算する時は、上海の貿易額は正に現在の數十倍に達せなければならぬ。と云ふのは、日本は戰前に於て一人割宛て一年三十圓の貿易額を計上して居るので、支那も日本と同事情の下に在るとすれば、揚子江流域の人口を一億八千萬人と假定して、其貿易額は實に五十四億圓に上る筈である。が然し實際に於ては、現在僅かに四億八千萬圓の貿易をなせるに過ぎない。尤も頭割計算は大國と小國とは事情自ら異つて居るので、同日に論ずる事不可けれども、されど大體に於いて事情を同じうする印度と對照し、上海貿易額が、カルカッタの夫の半にも達せない現情より觀るも、上海は尙ほ迫かなる發展を現實すべき將來を有つて居るものと言ひ得るのである。然らば上海は何故に斯く比較的低級の貿易狀態にあるのであるか、其には種々の原因存せんも、余は大體に於て左の四項の理由に依るものと信ずる。

第一　支那內地人は往昔より自給生活に慣れて、今日尙ほ依然として舊套を脫して居ない。地理學者スペンク博士の所謂ホームスペース（供給圈）とは支那に於ては著るしく近接し、殆んど一致に近いのである。此の居住と供給の兩圈は、國の未開なるに從つて接近し、文明程度の進むに從つて隔絕するのである。

第二　交通機關未だ整備せざる爲め、物資の集散意の如くならず、從つて貿易不振の境を脫し得ない。

第三　第一との關係上、生產物は貿易品としての資格を具備し得ない。即ち品質の等級幷に等級に應じたる同品質の產額一定せざる結果、支那の生產品は世界市場に勢力を揮ふ事が可能ない。

第四　支那人の生活程度は未だ遠く日本人に及ばない。

雖然、右に擧げたる諸點は、年月の經過するに從つて、漸次面目を改む可き性質のものであつて、唯だ時間の問題に過ぎない。而して其時間は又觀る者に依つて各自解釋を異にするであらう、乃ち支那の進步が、日本に十年遲れて居るとすれば、上海貿易額は十年以內に五十餘億圓に到達し、又二十年の遲緩があるとすれば、二十年以內に其の貿易額を計上するに至る譯である。

支那人は元來企業心の點に於て日本人に劣つて居ると云ふ者もあるが、支那の外國貿易の增進は、支那人のみの努力に俟つ可きものでなく、寧ろ日英米人等の力に與るのが多い。支那に於ける諸事業中には日支、英支、米支、日英、日米等の合辦若くは是等列國の單獨事業が支那貿易を增進せしむる上に於て、非常な助勢を與へて居るのである。然れば支那人は日本人に劣ると云つても、開發遲緩の有力なる理由とはなり得ない。於是乎、東洋通を以て知らるゝ英人ゼー、ダウリューバシユフォード氏は、支那對海外貿易の將來廿五年に於ける增進率は、日本の過去二十五年間に於ける夫よりも大であると斷言して居る次第である。日本の外國貿易額は、過去二十五年間に十四倍して居るが、若し日支同樣の進步率として此の比例を支那貿易に適用する時は、廿五年後の將來に於て實に三百餘億萬圓の巨額に達し、而して支那最大貿易港たる上海は、支那全貿易額の約四割を占め其の割合は將來に於て增進するとも減退の憂なきを以て、二十五年後に於ては少くとも三百億圓の四割、卽ち百二十億圓の貿易額を現示するに至る譯である而も是は過當の計算に非ずして、寧ろ實際に於ては益々發展の可能なるを信ずべき多くの材料を有して居る。香港上海銀行總支配人たりしト―マス、ジヤクソン氏は、支那の商業的開發は今や漸く初期に入れるものにして、將來に於ける其の發展程度は到底計り難いと言つて居る。假りに上海が廿五年後に貿易額百二十億圓に達すると云ふ說を正しき解釋とすれば、向後十二、三年にして既に五十億圓を計上し、上海の近き將來に於ける發展速度は實に目覺しきものゝ如く觀察されるのである。

第二章　揚子江流域の水陸交通系統

揚子江は源を遠く西藏に發し、四川、湖北、湖南、安徽、江西、江蘇の諸省の間を東に流れ諸水を合して海に達して居る。其流域は本支流を合して廣袤實に五十七萬平方哩である。揚子江本支流中大小船舶の航行し得べきもの一萬哩、面積百平方哩の地域に對し水運の割合約一・八哩に當つて居る。而して南船北馬の俗諺の如く、此の地域一帶は水運に依つてその豐富なる天産物を搬出し、又數億の人民の需要する物資を供給して居る。本江は支那に於て最も河運の盛大なるものにてその流域には遠く四川の成都、重慶を始め湖北の宜昌、沙市、漢口、武昌、湖南の常德、長沙、岳州、江西の南昌、九江、安徽の安慶、蕪湖、江蘇の南京、浦口、鎭江、上海等沿岸に良埠頭多く、汽船を通じ得る流域が一千九百哩、小蒸汽船を通じ得る所が四千七百哩、此の外に民船のみを通じ得るもの五千五百哩ありと云はれて居る。唯だ本支流共夏冬に從ひ水量の增減が甚だしく、夏季增水中は江口より六百哩の上流まで（上海より溯江、漢口に至る）吃水三十呎一萬噸内外の外洋船を通ずることが出來るが、冬期最減水中は江中僅々約九呎の水深を保ち得るに過ぎない個處がある。從つて四時常に航江を持續しやうとすれば勢ひ特殊の船型を要する事になり、茲に長江航路專用の淺吃水船を見るに至つた。

揚子江の汽船航運は幾多變遷の間に五十餘年の閱歷を有して居る。初め支那の招商局の支那沿岸線及長江線に航運業を開始せしは一八七三年頃にて、今を距る四十五年前の事である。その後英國の汽船會社入り來り、種々の歷史あるも我日本にて揚子江に手を着けしは日清戰後支那問題の盛になりし頃にて、大阪商船先づ長江航路を開始するに至り、次で獨逸船佛蘭西船等も本航路に入り來つたが、その後日本郵船會社は Mac Bain 線を買收し翌年には湖南汽船會社も吾が國人の手によつて創立せられ、その後極めて小規模のものなれど蘇州行の大東汽船なるものも出現したるが、恰も當時揚子江航運界は國際的競爭の頂點に達したる折柄、同一國旗の下にある我が商船、郵船、湖南、大東の四社が合同して今の日清汽船となり、更にその航路を擴張して常德長沙に至る航路が開けた間もなく一九〇八年頃ならん世界經濟界不振の影響を受けて、獨船退き佛船又影を潛めて自然淘汰の結果、長江航運界の勢力は日英支三國の手に移つたのである

現今に於て長江航路に從事せるは

一、日清汽船會社

上海漢口線　約一週四回又は五回
寄航地　鎮江、南京、蕪湖、九江
使用船　陽型五隻、大型四隻

漢口宜昌線　五日一回
使用船　二隻

漢口長沙湘潭線　毎週二回
使用船　二隻

漢口常德線　毎週一回
使用船　一隻

鄱陽湖線　毎月六回
寄港地　九江、吳城、南昌
使用船　小蒸汽船一隻

二、CHINA NAVIGATION CO.

上海漢口線　一週四回
寄港地　鎮江、南京、蕪湖、九江
使用船　七隻外に臨時船一隻

漢口湘潭線　一週二回
寄港地　岳州、長沙
使用船　三隻

漢口宜昌線　十日一回
使用船、一隻

三、INDO-CHINA STEAM NAVIGATION CO.

上海漢口線　一週三回又は四回
寄港地　鎮江、南京、蕪湖、九江
使用船　五隻

漢口宜昌線　約十日一回
使用船　一隻

漢口長沙湘潭線　毎週一回

使用船　一隻

四、招商局

漢口上海線　一週三回又は四回

寄港地　鎮江、南京、蕪湖、安慶、九江

使用船　五隻

漢口宜昌線　五日一回

使用船　二隻

五、鴻安輪船公司(英國) Hong On Steam Navigation Co.

上海漢口線　十日二回

寄港地　鎮江、南京、蕪湖、九江

使用船　二隻

六、寧紹輪船公司(支那)

上海漢口線　十日一回

寄港地　鎮江、南京、蕪湖、九江

七、中華輪船公司(支那)

上海長沙線　不定期約十日一回

寄港地　不定

使用船　二隻

八、北獨逸「ロイド」社(獨逸)

上海漢口線　一週一回

使用船　二隻

歐洲戰爭開始と共に休航し、次いで支獨間國交斷絶により支那政府が敵國船舶を管理することゝなり、沒收せられたり。

此の外尙ほ臨時不定期の廻船もあり、礦石積取船の如き、又石炭運搬船の如きも片途一般貨物を運搬することもあるが、現今は之等にて充分なるべきも、內地鐵道の完備に伴れ貿易も增進すべく、將來は之等にては不足にて、益々發展の余地あるべきである。現に此の戰時中逐年湖江船の噸數を增加したるも、大して過剩を感じたることなく、殊に之が世界的に船腹の減少せるに拘らず行はれたるを見れば、戰後一層の活躍を見るべきは疑ふ余地なし。

長江の上流宜昌重慶間は三峽の險ありて、舟揖の交通頗る困難なりと雖も、其

間を來往する民船一ヶ年約五千隻、其積載量一船約百噸と見て、片途僅に五十萬噸に過ぎず、而して四川は中國最富の地にして人口六千餘萬を有すと稱せらるゝが故に、其長江に出づべき物資は運輸機關の發達と增進に依りて、數十倍に至るべきや疑を容れざる所である。長江本支流の外之と連る彼の有名なる大運河の改修工事は其の完成後に於て、水運の便を甚大ならしむる耳ならず、其の運河に沿へる諸地方の作付反別を增加すべく、更に黃河と揚子江との連絡達成せば沿岸の開發は期して待つべく、內地航運の利便蓋し大なるものあるであらう。

夫れ、運河大修築の計畫は、滙河の汎濫に由りて、地方農民は每年多大の損害を被れる爲め、其の苦痛を免れしめんとする人道上の問題に基き、千九百十四年一月三十日中華民國と米國紅十字社との間に、其の費用として米貨二千萬弗の借款契約を成立調印したるものである。されど間も無く歐洲戰端の啓かるゝに際會して、借款の受授は一時行惱むの姿を呈し、其の後曲折を經て、千九百十六年四月、其工程を二分し、一は揚子江より江蘇省を過ぎり、他は山東省を通過して黃河に至るものとして、前者は米國インターナショナル、コーポレーションとの間に右運河の通過稅其他年收額約六十萬弗を担保として、七分利附米貨三百萬弗の借款を成立し、後者は我が帝國が、山東省の戰前に於ける獨逸の利權を承繼したるものなれば、當然の權利を有すと主張したる結果、日米支三國の間に借款契約を締結した。其の見積に據れば航運五百哩、埋立地域十萬エーカー耕地九萬七千エーカーにして之が竣成の曉に於ては、年額二百五十萬弗の增收を得ると云ふのである。亦た以て工事完了後に於ける揚子江流域の增收額の如何に大なるかを推知し得べく、其の航運の利便と農作物の收穫增加とは、世人の非常なる期待を以てせる所である。更に楊子江と連絡する水系は、洞庭湖、潘陽湖が、長江の汎濫と旱魃を調節し、其他全體に亘つて大小の湖沼、堀割、入江等を無數に有し、其の全延長約十萬哩に達して、殆んど長江との連絡を保せざるものは無い。而して其の多くは十四五世紀に開鑿せられたるものにして、當時は相當の利便を航運に與へしと雖も、爾後荒廢に歸し、今や漸く或る部分は支那人自身に於て其の改修の任に當り、或る部分は外人の手に依りて改修せられて居る次第である。

尙ほ進んで、陸上交通を觀るに、楊子江流域の鐵道は、長江と各重要都會とを連絡するも、大體に於て觀察すれば、南京と漢口の二中心點を有して居る。此の二大都市は目下建設中若くは將來に建設せらるべき鐵道の、必然其の中心點たらざ

るを得ざる地形にある。

南京は滬寧、滬杭鐵道に依りて上海を過ぎり、杭州、寧波に出で、又南京より南昌長沙に至る鐵道線路は目下測量中に屬するも、完成後は南昌にて南潯鐵道に接續して、將來九江及福州との連絡を結ぶのである。上海寧波線は更に延長して溫州に至り遂に福州に達する。如斯して將來江蘇、安徽、江西、浙江と福建の北部と聯絡出來し、不規則なる四角形を形成するに於ては、中部支那の重要なる沿岸諸港と連絡を得る耳ならず、楊子江流域の大貿易港との關係を密接ならしめ、中部、北部支那の全體と、南部支那との交通を連絡すべし。右は南京を中心とするものなるが、進んで、漢口を中心とする陸上交通關係を究むれば、之れは又大別して南北線と東西線とする事が可能る。南北の線路は古き歷史を有し、且つ其の一半たる八百十八哩の北京漢口線は既に數年前に敷設を了し、爾來年を逐ふて其の運輸力を增進しつゝある。而して南北線の他の一半たる漢口廣東線は、全く別個の鐵道なれども、其の歷史的關係幷に國際的關係に於て、北京漢口線と共通點を有し、又交通系の上から言へば漢口を中心として、南北を連絡するものに係り、一は楊子江流域と支那の首府及北部支那とを結び付け、他は楊子江流域と西江流域とを結び付くるものである。

偖て此の漢口廣東線は、最初英國人の企業なりしものが、後年紐育の米支開拓會社が之に關係せんとして、支那政府と或る契約を締結し、更に其後に及んで、獨亞銀行が張子洞より武昌を起點とする廣東への鐵道利權を獲得したる等の事情にて、列國の利害關係は極めて復雜になり、終に巴里會議を開催して、其協議をこゝひたる結果、千九百十年に契約調印を終へて、英米獨佛四國より成るシンジケートの成立を見、翌年五月に五分利附六百萬磅を支那政府に貸附け、左の二鐵道を布設する事に至つた。即ち

第一　武昌より岳州、長沙を經て湖南の南端に至り、其地に於て廣東側より來れる線路と連絡す

第二　北京漢口線の廣州より宜昌を經て、四川省燕州に達するものにして、之を湖廣鐵道の湖北線と稱す

漢口を中心とする横線即ち東西線は北京漢口線の漢口より僅か北に位する信陽と天津浦口線の浦口とを連絡するものと、前述の湖北線なりしものなれど該二線は其の工事着手後、歐洲開戰の爲め資金融通上困難を來して、一時中止する

の止む無きに至つた。於茲米國は獨立して四川省と楊子江流域とを連結する東西線を布設せんとする大計畫を立て、千九百十六年五月十七日にシームスカレー鐵道及運河會社と支那政府との間に二千六百哩の鐵道布設に關する契約を成立し、其の線路は測量の上決定する事になり居たるが、最近の報告に從へば、京漢鐵道の信陽驛より湖廣鐵道の湖北線に稍並行して、襄陽を經由し成都に達する鐵道を布設するに至つた。是は物資輸送の點に於ても、又西藏雲南に對する政治上の意味に於ても、其の開通は大に必要なるが故に、支那政府の贊成する處なれども、英國は浦信線を信陽より延長する場合の優先權を有し居れば、該線は英國の既得權に抵觸する嫌がある。併し乍ら英國の資本家は、現下此の計畫を遂行する餘裕なきを以て、多分故障は出でざるべしと豫想されて居る。四川省は其の農産物のみに就て言ふも、一年優に一千六百萬噸以上の産額を有するが故に、該鐵道の開通を見んか其の輸出のみにて楊子江流域の貿易額を增進せしむる蓋し甚大である。

以上の鐵道系統の外に未だ工事に着手せざるも、既に計畫中に屬するものは、重慶雲南鐵道にして、之は長江と西江とを連絡するのである。雲南より南すれば佛領印度に入り、又西すれば緬甸に入る。雲南緬甸線は古き歷史を有し、其の實現は亦た時の問題に附せられて居る。

以上河川の修理、運河の改築、鐵道の延長等は、若し歐洲大戰なかりせば、着々計畫の歩を進めたる筈なりしに、開戰の結果は、所要材料幷に適當の技師を得難く、全ての計畫を一時中止せし次第なるが、然し戰事終結したる曉に於ては、戰前に倍する速度を以て諸計畫の實現に着手せらる可く、支那の開發殊に楊子江流域の開化は、實に世人の想像以上に目覺しきものと信ぜざるを得ないのである。

第三章　交通機關の發達と勞働問題

支那には文明國に謂ふ所の道路なく、有る所の道路は極めて貧弱である。往昔公馬大路と言ふものありて、北京を中心とし、二十箇の驛遞存せしも、數百年來荒廢に歸し、曾つて之を修理するの官憲なく、自治團體も亦放任して關心せず、以て現在の狀態に遷移せるが、其の有する貧弱なる道路には、騾車、牛車、大車、小車、轎子駄運等を通じて旅客幷に貨物を運輸して居る。支那では人口によく噌炙せられて居る南船北馬の語の其の如く、南支那に於ては交通を河川に據り、水運の便なき地方に在りては、前顯各種の不完全なる機關に賴るを以て、從つて運賃嵩まると共に、他面多大の勞働を要求するものである。

文明國に於ては、艀、曳舟、舸の如きは、多く港内の運送に從事し、汽船即ち本船の補助的機關として、短距離を運輸するものであり、又大八車、荷馬車の如きも主として市内の運搬に當り、汽車の補助機關たるの觀がある。而して是等の機關は汽船幷に汽車に比較して、其の一哩一噸當り運賃は割合に高率である、例せば東京の人力車は電車の補助機關に似て其の運賃は頗る高率である。然るに上海に於ては、電車と人力車とは競爭的地位に立つのみならず、人力車の方は運搬力が多いのであるが、如斯きは過渡時代に於ける一時的現象であつて、文明程度の進化に伴隨し漸次消滅し去るものである。卽ち支那に於ける前顯各種の運輸機關は汽車に壓倒せられ、戎克は汽船の爲めに其の用を半ば失ふ。斯くて此の關係は一面に於て必然的に貨客運賃率の遞減問題と、勞働節約幷に節約せられたる勞働の處分問題を發生せしむるのである。右に述べたる事情の下に於ける運賃率遞減の割合は、今直ちに正確なる發表は稍困難なるも、併し約半減を招來し得べきは想像容易なのである。十年前某研究家の調査したる處に依れば、運河及び河川の運送賃率は一哩一噸六仙で、騾馬は五仙、天秤棒では三十仙を要する旨を發表して居る。予の最近調査に依れば、馬若くは騾馬七八頭を用ひて、積載量三四噸の荷物を運搬する時は、大車に於て一哩一弗十四仙、騾馬に於て約六十仙を要す。尤も時處に因り幾分の差異あるを免れざれば、之を以て正確なりと斷ずるを得ざる事勿論である。上海に於ける艀賃は一哩一噸七十五仙、天秤棒約一弗、小車約六十仙、大車一弗なるが、市内幷に附近に在りては鐵道に壓倒される憂はないが、序で

ながら言へば、之は市内に於ける運搬賃が、田舍に於ける夫よりも高率なる結果田舍勞働より轉じて、より有利なる上海勞働に移るので、之を取締らんと欲すれば彼等の同盟罷工を惹起する虞がある。北米合衆國に於て、ワーゴンは一哩一噸米貨二十三仙、鐵道は七厘五毛に當り、日本の鐵道に在りては三百哩未滿は一錢乃至二錢、三百哩以上は八厘に該當する。而して支那に於ける鐵道組織は其系統一樣ならざる爲め、從つて運賃率の一定を見得ないが、されど汽車一哩一噸約二仙と見當すれば大差ないであろう。

鐵道運賃が其他の運輸機關より低廉なる時は、鐵道沿線に於ける長距離の後者機關は漸次廢用せらる可く、而して其節約せらるゝ勞働は如何に處分すべきか。之を運送方面に於て外國の實例に觀れば、英國は世界的運送業國なれば、之に從事する勞働は極めて多大なるべき筈に拘はらず、實際に於ては英國の全勞働の百分の六乃至八に過ぎず、又白耳義は單に自國製産品の運送に止まるを以て全勞働の百分の二乃至三である。然るに支那に於ては、勿驚全勞働の百分の十五乃至二十に該當すと言はれて居るのである。雖然英國運送勞働は汽車汽船の發達に伴ふて增加すべき性質を有すれど、支那の運送勞働は之に反し、交通機關の發達に隨ひ減少すべきは前に明かにした如くである。然らば其減少の程度は如何と言へば、之亦前述の如く半減卽ち百分の七乃至十の節約を爲し得るので、其結果當然に之を他の産業に從事せしむる樣にせなければならぬ。北亞米利加は三十六萬哩の鐵道を有し、其内合衆國丈の延長哩數は二十六萬哩にして、鐵道從業者は百六十五萬人を算す。而して同國の每年の延長哩數は尙ほ數千哩に及ぶと稱せらる。從つて之が爲めに要する勞働は年々歲々增加し行くのであつて、支那の如く現今僅かに六七千哩の鐵道が其倍に達し、一萬哩や二萬哩に延長した る結果、節約せらるべき勞働を研究すべきものと其の趣きを異にす。支那と酷似する印度の例を見るに、支那は二十一省百九十萬方哩の面積と、人口三億三千萬人を有するに、東印度は全部を合して面積百七十一萬方哩、人口三億なるを以て支那二十一省は面積及人口に於て共に印度より約一割を上に出でゝ居ると看做される。然るに支那の現有する鐵道は一萬哩未滿なるに、印度は既に四萬哩の鐵道延長を有し、爲めに該沿線に於ける苦力勞働を多大に節約したるも、其處分に窮したる歷史を見ぬ。鐵道の延長に伴ふて印度の二大商工業都市たるカルカッタ及ボンベイに於ては、製麻、製粉、紡績工業等勞働を吸收する工業起りたると

石炭並に製鐵事業の發達とに原因して勞働の缺乏を豫期せられ、漸次勞働賃銀の高くなる傾向がある。依是觀れば、支那に於ても鐵道の延長と共に、鑛山の開發各種製造工業の發達を招來したる曉に、勞働の剩餘を見る憂なき耳ならず、反つて多々益々辨ずべきであらうと想察せらる。否、延長工事は今後數十年間に亘つて繼續し、幷に既成線に於ける勞働も可成の數を需要するを以て、支那に於ける鐵道の發達に伴ひ節約せらるべき勞働の處分は、尙ほ將來數十年の間困難なる問題となり得ないである。

米國は由來資本豐富なれども、勞働缺乏の爲め賃銀高率にして、自然低廉なる勞働力を外國より輸入しつゝある。之に因つて移民問題と爲り、勞働節約機械の發明が歡迎せられ、資本家對勞働者の反目軋轢が絶へ間ないのである。支那は之と全然反對にして、資本の缺乏と勞働力過多に由つて、由來幾多の經濟及社會問題を勃發せしめて居る。米國の幅員を支那の夫と對比すれば、支那全土より西藏を除きたる面積が、殆んど米國と等しく、約三百八十萬方哩で、人口は米國の一億に對する支那の四億である。而して兩國の富源は何れも無盡藏たる關係より、米國の資本が自然支那に流入される傾向がある。又米國の資本のみならず何れの國の資本にても多々益々歡迎して、藏れたる富源を開發すべきであるが、資本の流入と共に之を運用する企業家の勞働を支持監督する技能を要すること多大である。換言せば、世界經濟界の全般に亘つて最も困難を感じつゝある勞働は、獨り支那に於てのみ豐富にして、低廉なる事は工業經濟上、絶大なる便宜と言はねばならぬ。殊に長江流域の農産物、鑛産物とも豐饒にして、最も稠密なる人口を有する地域に於ては、勞働利用の將來の多望を物語つて餘りあるのである。

第四章　長江流域に於ける事業

交通機關の建設及其經營の外に、長江流域に於て興るべき、若くは着手せざるべからざる事業は可成り數多しと雖も、先づ之を大別して三種に分つ事が出來る。卽ち(第一)農業(第二)鑛業(第三)製造業是である。

第一　農業

農業に關しては(イ)河川の修理及び灌漑工事に依つて植付反別を增加し、旱魃と水害の調節を圖り(ロ)種子を改良し(ハ)適當なる地味に適當なる種子を植ゑ付け(ニ)農具を改良する事等最も急務である。長江流域の沃野は二十五萬方哩にして、人口一億八千萬と稱せられ、其大部分は農民である。而も其數千年來の從業に依つて得たる農事上の經驗は疑を挾む餘地無く、中には外國に於て見るを得ざる特殊の尊き經驗を有すとさへ聞く。然し乍ら總體に於ては外部の刺戟少き結果自給自足的にして、未だ原始的農作方法たる事は爭はれ無い。河川の修理及灌漑工事が或は北米合衆國の如く、或は埃及ナイル河流域の如く、棉產地を擴大し若くは東印度各地に於けるが如く旱魃地を需し、又は不毛の地を耕地に改め、其農產區域を增大するに於ては、產額の增加從つて著大となるべし。米國、印度及ナイル河地方に於ても、イリゲーションは當然的に收支償ふべきものとなつて居るが、支那に於ても其私營事業たりと雖も、必ず相償ふべく又償はざる可からざるものである。種子の改良幷に地味と種子の關係を、其農作物の種類に就て研究し、農具の改良を圖るに至らば、恐らく產額を倍加する事困難では無い。單に棉花栽培から見ても、其面積其地味よりして、近き將來に於て四百斤俵二百萬俵の生產高に到達せしむる事左程困難で無いと思ふ。之を印度の例に見るも、千八百五十一年一月、卽ち今を距る六十八年前の出版に係る「印度の棉花と商業幷に鐵道との關係」と云ふ英人の一著作書に現はれて居る處に依ると、千八百四十一年英國議會に於て、印度棉花栽培特別會が設置せられたと殆んど同時に、印度交通機關改良卽ち鐵道布設問題が起つた。是は「ベラー」地方は良好の棉花を產出すると雖も、交通不便のため運賃嵩み、之に依つて折角の良好にして低廉なる棉花が高價と爲り、英國に引合はざる結果、茲に鐵道布設の必要が論議せられたのである。支那內地に於ても之に似通へる地方は可成り多かるべしと思ふ。英國が印度棉

花に着目した所以は、自國綿業が漸次發達して、棉花の供給を米國及印度に待ちしが、當時印度よりの輸入は可成り多量に上り、從つて印度に於ける棉花栽培事業は相當發達を呈して來たけれ共、印度の英國向輸出數量は最多の年に於て約二十萬俵を出でなかつた故である。果然英國の種々なる施設の結果、現時に於て印度の棉花産額は年の豐凶に依り一二割の差異あるも、約四百五十萬俵に達し米國の年産額千四五萬俵の約五分三に該當するに至つた。依之而觀ると、支那の面積及地味の點から素人觀察を下しても、年二百萬俵の生産額を上ぐる事容易であらう。又ほんの附言に過ぎないが、印度に於て棉花商が棉産地の地主又は小作人に金融して大に奬勵を加へつゝあるが如きは、支那に於ても棉花增收を圖る上に於て充分參考に資する必要がある。其他米穀、大小豆、小麥の如き農作物の産額を增大せしむるに就ては種々の方策存すべく、殊に東洋人の常食品として必要不可缺の米の如き、産額を增して其剩餘を輸出するに至らば、支那の國富を大ならしむるは勿論、國際貿易上に多大の利益を齎すべしと信ぜらる。予は其實行方法として長江一帶の重要箇所に農事試驗場を設置し、該方面の研究に着手する事を希望する。由來農業は最も古くして而も最も新しき化學の應用を必要とする産業であつて、製造工業の如きは比較的理化學の應用簡單にして、機械學の應用に俟つものが多い。農業に於ては地味の化學的研究、動植物肥料の應用若くば天候、氣溫、光線、雨量の關係等仲々多方面に亘る研究と經驗を要し、而して其研究の種類に依つては非常に有益なれども、又非常なる經費を要するものもある爲め、文明諸國は國立農事試驗場を各所に有し、農事改良を圖るのである。支那に於ても最も重要なる農産地たる長江流域に數箇所、又は數十箇所に農事試驗場を設置するに至らば、農作物の品質を改良し、産額を增大ならしむる事に偉大なる効果があると思ふ。如斯にして現在の如き産地に依る區別を改めて普遍的に品質を一定し、其一定したる品質に依つて等級を分別し、大量貨物として取扱はるゝに至らば、茲に初めて農作物が商品化し、商取引上に甚大なる利便を與ふるのである。

第二　鑛業

長江流域に於ける鑛業に關してはリヒトホーヘン男の調査を初めとして、内外人の調査に係るもの頗る多い。就中日本人の調査としては、東京地學協會發行の「支那調査書及地圖」「揚子江流域」(石井工學士著)及び「中支那及南支那」幷に小山工

學士の著作に係る「支那の鑛産地」等は支那鑛業研究者の最好の參考書であるが其他會社等に於て特に秘密調査を成せるもの多いと思ふ。最近田中館理學士は揚子江一帶に於ける諸鑛脈の調査研究中であつて、數箇月後には其結果が世に發表せらるゝことゝ期待せらる。最近に現はれたる英書は「William Collin's Mineral Enterprise in China」である。其の序文の冒頭に於て、支那の礦業が他の産業に比し特に其の發達遲れ居る事實を指摘し「西洋諸國の礦業は支那の礦業に比すれば、或る場合に於て二三百倍以上の割合を以て進歩して居る。支那の外國貿易幷に內地商業取引は、他の諸産業の發達に因るよりは、特に其の礦業の開發に因つて一層の發展を遂ぐべき筈である」と。是れは支那の礦業が未だ極めて幼稚時代に屬し、開發の余地の如何に廣大なるかを物語るものである。

抑も支那には往昔より鑛脈に關する文献が尠くなく、大冶鐵鑛の如きも、張之洞氏が書史中に之を發見したるものと傳へらる。書史に現はれたる鑛山は江蘇省二十九箇所、安徽省四十五箇所、湖北省三十六箇所、四川省百四十三箇所、江西省八十四箇所、湖南省七十六箇所、貴州省四十四箇所、浙江省六十六箇所とあり、中々少からざる鑛脈にして、更に其礦物の種類を言へば、金屬鑛に於て

金鑛、銀鑛、銅鑛、鐵鑛、鉛鑛、亞鉛鑛、水銀鑛、錫鑛、砒鑛、タングステン鑛、錳鑛

等あり、非金屬礦に於ては

水昌礦、硅砂礦、陶土礦、雲母礦、石墨礦、石炭礦、鹽礦、瑪瑙礦、蠟石礦、柘榴礦、明礬礦、石膏礦、滑石礦、石綿、硫黃礦、方解石、硝石礦

等殆んど礦物として非ざるはなしと言ふ狀態である。是等鑛脈の發掘が資本と技術幷勞力を要する事勿論にして、幾億の資本を注入するに値すべく、幾多の人材を用ふべく、又幾萬の勞働者を必要すべきも、然し愈々之が開發を見たる曉には、支那の國富は愈增加し、鐵道、汽船、舸も共に運送力の不足を告ぐるに至り而して是等諸鑛物輸出の代償としては、各種の外國品が多量に供給せらるゝであらう。

第三　製造業

製造業は概して動力、原産地、消費地、市場、交通機關等の關係よりして、一地方に集中せらるゝ傾向を有つて居るが、長江筋に於ては漢口と上海とが製造地たる趣がある。漢口に就て觀るに、同地に於て最も盛んなる搾油、蛋粉、製茶、棉花壓搾工業の如きは、原産地との關係より來りたる製造業にして、是等の工業は今後益々

盛大に赴く筈であり、又漢陽に在る製鐵事業の如きは、鑛産地と炭礦との有利的關係より當然的に起りたるものと言ひ得る。上海は消費地と交通との關係以外に氣候、用水幷に水面との關係上、綿絲布紡織、製紙等は最も盛大に趨る傾向を有し、其他製粉、製麻、製革等の如き製造業も亦發展すべき事情の下にある。從つて最も有利なる位置として蘇州河兩岸に是等製造工場の多數あり、而して今後益々增設せられんとする趨勢は何等怪しむに足らぬ。殊に上海の特色は造船業に適當して居る事であつて、漢口の如きは減水期と增水期とのある爲めに造船業に不適當であるが、其水面との良好なる關係を有する港灣は、揚子江流域に於て唯上海一港で、上海は斯業に於て亦發展すべき素質を有して居る。上海が造船業に最適の地であると云ふ事は、更に其附帶工業として鐵工業繁榮の可能を意味する、卽ち上海は現在に於ても既に支那第一の鐵工業地として其の盛大を誇りつゝある。大體に於て上海に於ける製造業の種類幷に其數は、漢口の其等に比較して遙かに上に出て居るが、支那第一の工業地たる上海は諸種の事情から推して、近き將來に於て更に一番飛躍、東洋有數の工業地に進むであらうと思ふ。農業國の製造業は概して半製品を多く產出するが、此は工業發達史上から觀て必然的過程である。長江一帶に於ける製造業も此の史的事實に從へば、當分半製品の生產で滿足せねばならぬ。棉花の壓搾は半製であつて、之を絲に紡ぎ布に織るには更に加工を要し、又鷄卵工業も蛋黃白幷に粉を菓子原料、食料品若くは工業原料品となすには尙ほ之に加工をせねばならぬ。又製鐵業の如きも、漢陽は例外として、專ら半製品たる銑鐵を生產し、之を日本に於て鐵板、又は軌條等に加工して再輸入するのであつて、之は畢竟精製品の如く熟練なる職工を必要とする製造業は後廻しとして、半製品の生產に傾注して、精製品は之を先進の工業國に供給を待つのが、現實策として當を得て居る故である。此の方針を以て進めば、資本も比較的少くして、且つ支那人勞働者を充分に利用する事が能るので、遠き未來はいざ知らず、近き將來に於ては、此の方法が支那の工業を發展せしむるに最も良策だと思ふ。

第五章　世界交通上より觀たる上海

這次の歐洲大戰は世界交通系統に異常なる變化を與へた。夫を一々擧ぐれば數限りないが、然し大別すれば左の三つとなる。

(一)船舶は危險區域を避けて安全海に向ひし事

(二)戰爭の爲め減少したる船腹を充分に巧妙に利用せし事

(三)軍需品の運輸を先にして普通貨物を後廻しにした事

第一の例を觀れば、日本郵船會社の歐洲線は地中海經由を中止して喜望峯迂廻に改めた事と、幷に英國其他の汽船會社の東洋航路從航船も、同樣地中海通過を廢して喜望峯經由と爲つた。最近の發表に係る蘇士運河の年度報告に據れば、千九百十六年度に於ける同運河通過船舶は戰爭前千九百十三年度と比較して、噸數に於て百分の五十八を減じて八百三十七萬噸であつたと云ふ。又東洋歐洲間の從航船にして從來の印度洋通過を止め太平洋經由に改めたものも尠くないカルカッタ紐育線は戰前は地中海經由に定まつて居たが、潛航艇出現後其一部分は南阿經由と爲り、一部分は太平洋迂廻に變じた。第二の例は食糧品及軍需品の供給を可及的近距離の地に求むるの必要上、英佛其他の交戰國が戰前東洋若くは印度より仰ぎたるものゝ一部分を米國の供給に俟つに至り、其が爲め從來印度航路に從事せし船舶が太西洋に廻されたと云ふ事實がある。又第三の例としては、軍需品に運輸上の優先權を與へたる結果、供給國に變化を來し、或は輕量貨物よりも重量貨物の取扱が多かつたと云ふ事實がある。以上三個の事實若くは事情は、或は因と爲り或は果と爲りて遂に交戰諸國の船舶管理令を出すに至り、輸出入禁止又は制限を實施し、戰時に於ける貿易幷に航運系統に非常の變化を齎した譯であるが、扨て然らば吾が上海は是等の事情の爲めに幾何の影響を受けたかと云へば、夫は比較的少なき程度に於て終始して居る。先づ寄航船から言へば、歐洲航路船は減少し、地中海通過が南阿迂廻と爲りて數は減じて居るけれ共、然し寄港すべき汽船は依然寄港して居る。又輸出貿易も從來の輸出品は仍ほ貿易を續けて居て、唯だ仕向地が戰前と異なつたに過ぎない。輸入貿易も數量に於て稍減少して居るけれ共、英米よりの供給は需要に相當應じ、尙ほ不足の分は代用品として日本に仰ぎ、日本よりの輸入貿易は著增した。上海寄港船の戰前

四箇年間の一年平均噸數は約一千八百六十萬噸であつたが、戰後四箇年間の一年平均噸數は約一千七百萬噸である。又外國貿易は同期間に於ける一年平均額は四億萬兩弱であつたが、戰後の一年平均額は四億萬兩强に達し却つて增加して居る。平和克復とならば、場所に依り商品に依り如何なる程度までに戰時狀態を繼續すべきやは研究を要する問題であるが、上海は戰爭の爲めに被りたる影響の微少なりし丈け夫れ丈け、戰後は貿易に將た又交通系の上に於て戰前の狀態に復活し易いのである。卽ち上海は仍ほ戰前の貿易及交通を基臺として論ずる事の能る港であると思ふ。

然らば戰前に於ける交通狀態は如何であつたかと云へば、先づ歐洲東洋間の定期にありては、英の代表的郵便定期船は倫敦を基點、上海を終點とし、佛の代表的定期航路は上海を主要なる寄港地とし、獨逸の定期は上海を終點とし、更に之を基點として支那各重要港間に支線を張り來つたのである。又日本郵船の歐洲航路は往復共に上海を重要なる寄港地とし、戰時中と雖も之を繼續した。印度と東洋との關係に於ては、ボンベイ、カルカツタと上海と並に阪神とは密接なる連絡を有つて居る。太平洋航路に在りては、ボゼットサウンド灣諸港と桑港及び亞細亞側に於て神戸、上海、香港の三港とは最も主要なる大港である。南北航路卽ち日本基點の南洋航路並に日本濠洲間の航路と上海との關係は、未だ充分なる發達の域に進まずと雖も、其の物資集散の關係上近き將來に於て、上海は主要寄港地たるに至るべしと信ず。以上定期航路の外大小無數の定期、不定期の商船は輻輳して、實に支那第一の港灣たる誇りを肆にして居る。卽ち上海は世界交通系の上より言へば四通八達の衝に當りて、定期航路の基點たり終點たり又寄港地であり、物資集散の上より言へば不定期船を牽引する偉大なる力を持つて居る。

由來海運なるものは物質文明の程度の相違と、物產の種類の相違に原因して發達するものであつて、物質文明の程度相等しきに至らば、其間の海運は進步の速程を緩めるものである。之を歷史に徵するに地中海の文明は沿岸各地が同一文明の域に進步したる時に至つて、其の貿易及海運は太西洋に遷り、米國の物質文明の程度と歐洲の夫との差違が最も甚だしき時に當つて、太西洋の海運は非常なる速度を以て發達したが、米國の工業、米國の產物、米國の文化が漸く歐洲に匹敵する現代に於て太西洋の海運は其絕頂に達して、之より更に太平洋に移らんとしつゝあるのである。卽ち米國の物質文明と東洋の夫とが尙ほ大なる徑庭

のある間は、太平洋の海運は急激なる速度を以て進歩するのである。

今、東洋と歐洲との關係を見るに、文化の程度及び物資需給狀況は、太平洋岸に於ける支那諸港の賑盛を益々助長せしむる趨勢にある。又巴奈馬運河の開通は米國の東岸と太平洋との關係を愈々密接ならしめ、軈て之は亦亞細亞大陸と太平洋岸の貿易を增進する一大原因と爲るであろう。而して是等の貿易に對して支那に於ける其の代表的一大要港は當上海を除いて他に見出す事は能ない。以上の理論を事實に徵して具體的に說明すれば、英國よりは機械類、鐵道材料、綿布類を輸出し、其の復航荷として支那よりは五倍子、豆類、麻、落花生、胡麻、雜穀、蛋白黃其他製油原料の種物類を輸出する。米國よりも鐵道材料、石油、棉布類、農具、自働車、時計類の供給を受け、之に對して皮革類、蛋白黃、豆、落花生、茶、生絲、豆類、桐油、落花生、油等を輸出し、又印度よりは綿絲を輸入すれ共、之に對する復航荷は極めて僅少である。而して是等貿易の外に、現在に於ては獨墺の敵國と貿易する能はず、且つ聯合國間に在りても輸出入禁止若くば制限あり、更に船腹不足の爲めに充分の活躍をなし得ざる商業もあり、中には計畫中の工業にして機械類の輸入不可能の結果、一時中止のものもあり、或は鐵道の延長、河川の修理等も戰後の著手を餘儀なくせられて居る狀態である。而も尙ほ戰前の貿易額以上に達せる事實より推して、一旦平和克復となりて貿易の禁止若くは制限が解除せられ、船腹の緩和せられたる曉に、其の貿易額の著增すべきは火を睹るよりも明かである。

第六章　上海は東洋各港間の貿易の中心である

支那諸港の中で其の中心港たる可き價値を備へて居るものは、上海を除いて他に一港もない。即ち北より數へ來つて觀れば、天津は首府北京に近く、且つ直隷灣の要港なりと雖も、深き吃水の汽船の出入に便ならざる耳ならず、冬季三箇月間は凍港として封鎖され、大連は南滿の要港に位し、不凍港と稱すれ共港内には時々流氷を見、又青島は獨逸が其の租借中不斷の努力を以て、上海及芝罘を之が貿易的勢力範圍内に牽引せんと試みたるも、奥地の貧弱なるは所詮上海に敵對する事が能ず、山東鐵道を延長して陝西に至り、同省の鑛物を出すにしても、物資集散の上に於て上海の敵では無い。南に下つて福州、厦門、汕頭に至りては第一港灣の不良なる耳ならず、奥地兀角にして論ずるに足りない。香港は地理的には支那領なれども、政治的には英領に屬し、而も其の貿易關係は上海と殆んど異りたる方面にあり、揚子江沿岸に於ては漢口港あれ共、海上貿易港としては餘りに邊僻である。宜なる哉、上海は戰前戰後十箇年間に亘つて、常に外國貿易額第一位に在りて、支那貿易全體の十分の四强を占むる事偶然ではない。之を東洋貿易の上から外領の重要諸港と對比するに、神戸は稍北方に過ぎ、香港は南に偏し、馬尼剌に至つては米人の鋭意港灣の改良を圖るありと雖も、東洋の中繼港たること遂に其の自然的地形、港灣及物産の關係は之を許さない。今試みに上海を中心として半徑千哩の圓を描出すれば、神戸、大阪、名古屋、横濱、牛莊、天津、大連、青島、香港、馬尼剌、基隆等は其の圓中に包容せらる。假に神戸を中心とすれば函館、小樽其の圏内に入り、香港、馬尼剌は圏外に出づ。故に、東洋貿易の中心としては、其の地形及距離の關係上、上海は神戸に迥に優れりと言ふ可きである。更に中繼港として觀察するに神戸は餘りに日本式なのに反して、上海は萬國的色彩を帶び、銀行の如き、保險會社の如き、各種の貿易機關及商慣習は極めて萬國的にして、一國の法規に拘束せられて融通を缺くと云ふ事尠ない。是れ即ち中繼港として最も必要なる條件の一である。其他の條件即ち港灣の設備、船舶出入の便否、再輸出入手續の便否港費の多寡、荷役の遲速及費用等に於て、上海と神戸とは中繼港として競爭の地位に立てども、日支貿易の上より觀測すれば、兩港は互助的にして東洋の經濟的進展に貢献すべき地位にあるものである。何故なれば上海は日本に對する原料

品供給の關門にして、阪神は東洋工業の中心地帶である故である。更に之を日支兩國の國産の性質より觀れば、支那の生産品にして日本に要せざるものなく、又日本の製品にして支那の需要せざるもの無し。而して其の日支貿易の衝に當る重要港としては、支那に於て上海を擧ぐべく、日本に在りては神戸を最とす。即ち上海の輸出旺盛なる所以は神戸の輸入の多大なる結果にして、又反對に神戸の輸出の盛大なるは上海輸入の著大なる所以なりと言ふべきである。

第七章　船型の趨勢

第一　大船主義と小船主義

大船主義と云ひ小船主義と云ふも孰れも程度問題にして、久しき間に於ける論難研究の結果、現今に在りては稍解決せられたる如き觀あれ共、未だ疑問の點尠しとせず、殊に平和克復後の關係に於て然るを覺ゆ。大體論を以て言へば、大船は小船に比して經濟的である。即ち造船費の點に於て、一噸當りの經費は小船よりも大船が割安く出來上る。運輸經濟上より觀るも大船は小船よりも遙かに安廉である。單に石炭の例を以てすれば、五千噸型と七千五百噸の同性質の汽船との石炭消費額を比較するに、二十四時間航走に於て其の差は僅かに三噸に過ぎず、其の船型を增すに比例して右の差の割合は僅少になる。此の理由幷に其他の事情に因つて、荷物の運搬費一噸一哩は、大船は小船に比して低廉である。然し乍ら之は大船の積載荷物が滿船にして且つ航路の一定せるを前提とする議論である。小船は大船程滿船に骨の折れぬ事と、幷に印度航路の中型船を以て太平洋

に浮べる事は可能にしても、太平洋の巨船を海運市場の都合に依つて印度航路に使用せんと欲せば港灣の出入に不便を感ずるが如き、即ち船繰問題に於て小は大を兼ね得るも、大は小を兼ねる事不可能であると云ふ事が、大船の小船に及ばざる一大缺點である。更に大船主義に反對する有力なる一說は「總ての鷄卵は一つの籠に入るゝ可からず」と云ふ諺を以て其の象徵として居る說である。幾萬噸といふ所有る物資を積載した巨船が一朝難破等に遭遇すれば、是等の物資は素より、多くの人命までも失ふ事がある。大船は比較的安全だと稱せらるゝ現代に米國船タゴマ、ミネソダ兩船の日本沿岸に於て坐礁したる事は尙ほ吾人の記憶に新たなるものである。又大西洋に於ては彼の不沈の船と呼ばれたるタイタニック難破の慘事を演出した。小船も勿論危險であるが、併し大船も絕對に安全だとは言へぬ。然れ共現今の趨勢は何れかと云へば造船術の進步、海圖の正確、港灣の改良、貿易の增進等に基因して益々大船主義に傾きつゝある。千九百十二年米國費府に於て開催せられたる第十二回萬國海運會議に於て、船舶の大を長九百尺、幅百〇五尺、深三十一尺に制限するの提案が大多數を以て否決せられた。該會議に於ける一般の確信は、造船に何等の制限を加へざる時は今後十五箇年間に、七萬五千噸の排水噸と四十一尺の深サを有する汽船の大西洋に浮ぶを見るべく、尙ほ將來に於ては長サ千六百尺、巾百六十尺、深サ四十八尺乃至五十尺の汽船が出現すべしと云ふに在つた。以上の意見は汽船は年々歲々大さを增すべく未だ其の絕頂に達し居らざるを裏書するものである。

第二　標準型主義と特殊型主義

標準型主義と特殊型主義も又程度問題である。總ての工業の發達徑路は或る標準を目標として進むと雖も、然し特殊を絕對に認めない譯には行かぬ。殊に造船に於て然りとする。寒帶航海には碎氷機を必要とし、熱帶航海の船舶は鐵甲板にする時は日光の直射に依りて華氏百三十度乃至四十度に昇昂し、船員の健康を害する事甚だしきを以て木甲板とし、氷室を備へ、幷に甲板客收容の爲に二重覆を用ひなければならぬ。又カルカッタ、西貢、蘭貢等の河岸に出入する汽船は比較的高速力の而して淺吃水のものを要する。

標準型主義は極度迄に分業を利用し、大仕掛に而かも短時日に於て多數の造船を爲すに便あれ共、之が爲めに造船技術の進步を阻害する虞れが伴ふ。之れに反し、特殊型主義は各部に於て改良進步を圖る餘裕があり、造船技術に新機軸を作

り得れ共、又工業組織が漸次大仕掛に傾く時勢の要求に反する。斯くして兩者を比較研究すれば何れも一長一短、一得一失を免れずと雖も、公海航路を目的とする汽船は大體に於て標準型主義に趨りつゝあるのが現狀である。標準型主義の起原はノールウエイのストックボートが嚆矢であるが、歐洲戰爭の當初、英國の某船主が自身にて其の造船所を經營して、其の欲求する處の同一船型數隻を造船せしめ、其の必要ある毎に完成の數隻を買收したのである。後日、米佛兩國政府は委員を設け、標準型を作成したが、米國の如きは工業のスタンダーゼーションの本家本元なる丈け、夫れ丈け同主義を盛んに實行し、一箇年約三百五六十萬噸の造船率を事實に示すに至つた。我が國に於ても後れ走せ乍ら、委員を擧げて標準型なるものを作成したが、其のスタンダーゼーションに基いて相當の噸數を增加せんとする前に、早くも平和來の聲を聞くに至つたのである。

第八章　汽船と港灣との關係

由來海運界の一問題として、汽船は港灣を標準として建造すべきものや、或は港灣は汽船を標準として建設すべきかは、從來に屢々議論討覈せられたるものなるが、是等は孰れも或る程度までは是認せらるべき論據を有するも、共に絕對的と謂ふを得ない。沿岸航路の汽船は其寄港地の比較的低級なる港灣を標準とし爲すを常とし、支那南北の沿岸航路に使用せむとする汽船は、大連若くは香港を標準として建造するは不可である。何故なれば之が爲め却つて福州又は厦門等に出入するに極めて不便であり、若し是等の小港をして、巨舶の往來に便ぜむとするが如きは寔に無用の冗費である。此の立論からすれば、船舶は港灣に適合せしむるを要すれども、然し是等沿岸航路に使用する汽船は太洋を航海する堪にへないので、航海危險の點、航走日數の點及び船舶經濟の點よりして、遠洋就航の船舶は年々歲々巨船に趨く傾向あるは既に前章に述べたる如くである。太洋航海汽船に對しては、港灣を大にし水深を增し設備を完成するの要がある。然れど

も其の築港設備費は極めて巨額を要するものにして、大船巨舶の出入、物資の集散、輸出入貿易の數量等を、其の築港及び保全の財源として得るに充分であり、竝に其の港の充分利用せらるべき素質の非ざる限り該設計は甚だ困難である。是れを以て各國に於ける世界的大港は數に於て制限せられ、小數の大港を設けて物資を是に集中するの策を採るに至つたのである。從つて茲に港灣の自然的階級を生じ、一等港、二等港、三等港乃至四等港なるものが出來る。一等港とは太洋航海汽船を出入せしむる世界的大港にして、二等港とは工業若くは外國貿易の特種的關係より其の大さと深さを決定する。例へば大阪の築港が孟買の築港を標準として爲さるゝが如きもので、三等港以下は主に沿岸航路船を標準とするものを指すのである。然らば上海は如何なる標準に於て如何なる改良設備を施す可きかと云ふに、戰事中歐洲と東洋間との定期船は一時多く喜望峯を迂回したるも、一旦平和來の聲を聞くに及んで忽ち蘇士運河通過、地中海經由を採るに至り、又新に太平洋との關係を生じたる米國太西洋岸よりは、東洋に出づる汽船の主として巴奈馬運河を通過する傾向顯著にして、從つて彼是の汽船を送迎する港灣は蘇士運河の水深と、巴奈馬運河の水深とを標準として、浚渫改良を爲さねばならぬ。否現に歐洲東洋間の寄港地は、全て蘇士運河の水深を基礎として擴張工事を始めて居るのであるが、蘇士の水深は現在三十尺なれども、是を三十六尺の水深と爲すの工事は既に着手せられ、巴奈馬運河の淺き處で四十尺の水深を有し、古倫母は戰前より水深四十尺に改良する計畫あり、新嘉坡又然りで、香港の最も深き處は三十八尺を有し、神戸も亦之に準ぜむとして居る故に、是等諸港に出入する船舶を上海に迎へむとするには、上海港の水深を少くとも三十五尺に保たなければならぬ。然るに上海港改築の至難とする所は江口に銅沙の淺瀨があり、上つて吳淞には有名の洲があり、更に上海港内に於ては匯山の淺瀨がある。之を浚渫して三十五尺の水深を保たんとするは頗る難事に屬すと雖も、然も之を遂行して一大港灣と爲すに非ざれば、支那に於て他に世界的港灣たる港を見出す事が可能ない。於茲乎黃浦改修局に於ては鋭意改良調査に力を傾注し、其の結果上海築港問題なるものが持ち上つたのである。

第九章　上海築港問題

凡そ築港政策には二つの主義がある。即ち大港主義と小港主義、若くは集中主義と分立主義とである、集中主義卽ち大港主義は一港又は二港と云ふ極めて少數の港を完全にし、貿易を集中し、此の港を中心として物資を集散する政策である。小港主義卽ち分立主義は、可及的多くの港灣を可及的多く設備して、貿易的港灣を多在にする政策であつて、其の何れの主義を採るべきかは、其の國の地形、物産、工場の配置、人口の分布等に依りて決定せらるゝものである。英國の如きは寧ろ分立主義に傾き、幾多の港灣に接近して鐵あり、石炭あり、從つて工場あり、人口も他國に比較して稀に見る程數箇所の都會に分布せられて居る、假令倫敦、リヴアプール、バーケンヘッド、サウザンプトン、グラスゴー、ニウカスル、ハル、カーヂフ、ベルフアスト等幾多の世界的大港を有して居る事は英島國の特色とする處である。獨逸、佛蘭西、米國等は英國と同事情の下に非ざる爲め、完全的港灣は其の數を制限せられて居る。是は其の國の政策に依ると雖も、其の政策に據つて基く所は大體に於て、面積の割合に海岸線の長き國が小港主義に傾き、而して其れに反したる國が大港主義に趨るものであるが、然し大勢より云へば交通機關の發達に伴ふて漸次集中主義に傾きつゝある。支那に就いて之を見るに、面積の割合に海岸線は短く、都會人口の分布も分散的でなく寧ろ集中して居る。而して四圍の事情から大港に好適する港灣は上海を除いて他に求むる事は可能ない。乃ち上海が支那唯一の世界的大港たる資格を具備して居る事は、前數章から述べ來りたる當然的歸結である。扨て然らば上海を世界的大港と爲す案は如何と謂ふに茲に黃浦改修局技師の發表に係る案と、之に對する支那沿岸監督官の意見とがあり、上海築港問題は之等兩案を基礎として研究しなければならぬ。案の內容は種々他方面に且つ專門的に亘つて居るが、畢竟ずるに次の二方針に歸着する。第一は上海の現狀に改良工事を加へる事で、將來の大船時代に順應せむとするものので、之を實行するには先づ第一に浚渫工事を必要とするが、黃浦江の水深を四十尺にする事は頗る困難事業で、費用も莫大なる而已ならず、其の水深を保存する爲めには、始中終船を使用するの必要あり、されど是れ航海の邪魔になり、且つ其の費用も尠からず、又浚渫に加ふるに護岸工事に依りて河幅を狹めるのも水

深を助くる方法なるが、河幅の狹隘は船舶の操縱に不便なる爲め或る一定の限度がある。是に於て松江と西太湖の間に運河を設け、太湖より江陰までの運河を浚渫し、江陰に水閘を設けて、揚子江の水が滿潮の時、其の水閘を開き、水を之に入れて西太湖に通じ、更に松江より黃浦江に入れ、而して其の水深を增さむとする案であるが、該案は立案者自身に於ても未だ自信ある設計でなく、尙研究の余地多分なりと謂ふて居る。第二案は黃浦江全體を船渠にせむとするものである。之を實行せむとするには吳淞に數多の水閘を設け、是に依りて潮時の如何に拘はらず、大船の出入を自由ならしむる耳ならず、黃浦江全體に七尺の水深を增す事が可能る。其の工費四千五百萬兩である。四千五百萬兩と云へば莫大なる金高なるが、之れも一時的支出でなく約二三十年間に分出するものであつて、此の工事完成後は吳淞上海間三十八哩に亘り吃水深い沿岸線を有し、河幅壹千尺乃至貳千貳百五十尺程度を保つから、如何なる大船と雖も操縱回轉容易にして、之を旣設の商港に比較し、倫敦に七倍、漢堡の二倍半大にして、更に擴張の余地あるを以て、世界に大港多しと雖も、此の右に出づるもの絕無であらう。唯斯案に反對論のある點は、上海の衞生問題である。即ち吳淞に水閘を設け黃浦江の水を溜滯する時は、水道の源泉を何れに求むべきかと云ふのであるが、然し上海は今後十年乃至二十年の間には、現在の水道設備を以て滿足せなくなり、人口の增加、地域の擴大を招來するが故に、早晩水源を揚子江若くば西湖に求めねばならぬ。又下水道問題は、現狀のまゝでは不可で、或る化學的方法に據らざる可からざる時代が來るであらう。此の上水道と下水道の衞生的設備に付いて、工部局側は築港案の發表さるゝや否や、此の問題の討議に參加すべく申出でた。斯の如き陸上設備問題の外に、水上生活者に對する汚物取締も考慮するの要ありて頗る煩雜である。汽船の取締は至極容易なるも、小蒸汽、艀、戈船等から放棄さるゝ汚物の取締が完全でないと、船渠的上海港の衞生設備は甚だ憂慮すべき現象を呈するに至るであらう。

以上二案の何れを實行するにしても、夫れ丈けを以てしては上海港に大船の去來は不可能である、と云ふのは揚子江口に「フェヤリーフラット」と稱する淺瀨があり、其の水深は干潮時十六尺、普通滿潮時に二十八尺に過ぎず、且つ淺瀨の長さ三十哩あるを以て、是非共之を深くせなければ大船の上海入港は到底困難である。其處で之を干潮時三十六尺の水深を得せしむるには、浚渫工事のみにては効

果尠き爲め、護岸工事を施をして水道を定むるので、其工費實に四千萬兩である然るに上海港内の改造は黄浦改修局の權限に依つて行はるゝが、黄浦江を越へて揚子江に出づれば、改修局の權限は之れに及ばぬ。此處に序に改修局の組織並に性質を説明する必要があるが、之れは往年支那政府が噸税を徴收し、其を以て港灣の改良費に充當せむとしたが、政府の力足らずして失敗に終りし爲め、千九百十年に列强との間に條約を結びて之を組織し、上海海關徴收に係る噸税三分の一を以て上海港改良費に當て、支那政府も毎年四十萬兩を之に補助するに至り、而して黄浦江全體の改良を計らむとするもので、其の評議員として日、英、米、佛獨五國の代表者並に支那政府の代表者の監督の下に護岸工事或は浚渫等の如き工事を施し來り、尚將來の設計を研究しつゝあるのである。要するに其の職務は黄浦江の改良にあつて、其の地域は江外に出でないが、上海の築港計畫は上述の如く揚子江に及ぶ爲め、改修局の權限擴張案が必然的に生起した。

扨て右の大設計は餘程理想的にして、一見空想に近く思はるゝも事實は決して然うでない。着々として實地調査及び研究の歩を進め、其の調査の結果は「上海港の將來に關する報告」と爲つて現はれて居る。

尚沿岸監督官の意見は主として衞生問題に觸れ、上海の船渠的港灣は種々なる非衞生的事件の發生を齎し、又折角從來施したる改良工事は其の價値を失ふに至るを以て、現在のまゝに進め、將來の大船に對しては吳淞河を堀りて之に大船を横付せしめ、而して上海との聯絡は自働車並に鐵道の複線を以て充分にせむと云ふのであるが、之は上海入港の大船が斯く多數でなく、中型船舶の出入を多大とするが故に、大型船舶の爲めに莫大なる費用を投じて大工事を行ふの要なしと云ふのであつて、而して斯の主張に對しても相當の贊成者があり、前者と併せて共に研究すべき問題である。

左に掲ぐるは即ち改修局技師の評議員會に提出したる議案にして、築港問題研究者の參考に資せんが爲め、其の全文を譯載せるもなり。

上海　一九一八年十二月十八日

黄浦江改修局技師長室にて

エッチ、フオン、ハイデンスタム

黄浦江改修局評議員會御中

拜啓上海港將來の發達に關して

貴會議長イー、シー、リチャード氏より御依頼有之候に付左の二件卽ち

一、上海港を世界的一流の港灣となす事の技術上果して可能なりや否やを決定すべき審査研究の豫定幷に其の費用見積

一、審査研究の結果を發表し技術上より最後の斷案を下すべき代表技師委員會の豫定諸事項幷に其の費用見積

を茲に提出し貴會の議に附し度奉存候に就ては可然御詮議被成下度奉願上候　以上

技術上上海港を改善して一等港たらしむるの能否に關し、改修局が施行すべき調査研究(以上第一)幷に本問題に就き斷案的意見を發表すべき諮問技師委員會(以上第二)の豫定計畫及其の費用見積

第一　改修局施行の調査研究

(一)河口及沿岸の一般調査幷に海圖

イ、河口調査

淺瀨、支流との分岐點、特定地點幷に附帶小運河等に關して(一九一五年ヨリ一九一六年ニ亘リ行ハレタル調査ニ追加シテ)

費用　銀三萬兩

ロ、杭州灣の調査

之は改修局と航路標識局(The Coast Inspector's Office)との協定の下に改修局が費用の二分の一を負担する事とし、稅關海務部(The Customs Marine Department)が改修局の爲めに行ふ事恐らく最善の方法なるべし

費用　銀二萬兩

(二)技術的調査研究

上海港改善の諸種方案中孰れが最も實行容易なるかを明にし、諸技術的委員會をして最後の斷定を下すに便ならしめ、其他權威ある意見を發表せしむるため可及的多くの案を提出せしむる事を要す

而して之等の諸案は港への出入口の種類如何に依りて二大別する事を得、卽ち

(甲)揚子江河口を出入口として利用する案

(乙)海岸より直通の出入口を設くるの案

の兩案にして

甲の一　河口改善に關する基礎的調査

右の調査を爲したる上にて研究さるべき港灣設計に關する諸實行案は左の如し

甲の二　吳淞其他フエヤリフラットの內側に深水深の船渠港を設くるの案

甲の三　黃浦江上下入口に閘門を設け一大船渠港を新設するの案

甲の四　黃浦江を現在の儘にて一層改善するの案

(イ)潮流幷に河自身の水流增加に依る方法

(ロ)浚渫に依る方法

以上の外技術上考慮に値すべき諸案は如何なるものと雖も研究するを要す

(乙)の場合に於ては附帶運河は多少とも港の一部を構成する事となるべし、之に屬する諸案は下の如し

乙の一　杭州灣に閉閘深水深船渠港を設け大運河を開鑿して黃浦江と連結せしむるの案

乙の二　揚子岬附近に於て開口港を設くるの案(ポウエル氏案)

乙の三　上海に閉閘深水深船渠港を設け灣に通ずる運河を開鑿するの案

以上の外技術上考慮に値すべき諸案は如何なるものと雖も研究するを要す

終りに出入口の問題は暫く措き、フエヤリフラットを現狀の儘とし上海を改善せんとするの案

(丙)現在の水深幷に出入口を維持しつゝ行はるべき港灣改良の一般綱領

イ、水準幷に明細地圖

側斷水面、水平面幷に河線、位置等の調査研究、即ちフエヤーウエーの穿孔幷に既往設計の諸工事の爲め　銀　一萬五千兩

ロ、水面調査

淺瀨幷に外河口に關する既往の諸調査資料幷に水學的統計、工事期間、波浪の大小、二三地點に於ける過去一年間の精密なる潮準記錄、運

河本流幷に斜流に於ける諸潮流狀態、水蝕幷に埋沒作用の探査、一般水面狀態(稅關巡邏船使用の事)　銀二萬兩

上記諸案に對する地圖、設計圖、其の他圖面に對する費用見積豫算

右の爲めに左記の技師其他の設備を要す

調査の指導、指令及統括する技師長幷に調査技師一人、幷に總ての調査設備機械

(甲)右技師長の下に次の下僚を要す

一、熟練にして經驗ある設計技師(年俸九千兩)

一、調査技師(年俸七千五百兩)

一、設計其他種々の計畫を立て秘書的の仕事をもなす助手技師(年俸一萬二千兩)

一、支那人鑑査人二人(年俸六千兩)

一、支那人水準測定人二人、支那人書記二人幷に支那人踏査者六人(合計年俸一萬兩)

以上總計年俸約銀四萬五千兩、二年三ヶ月分にて總計十萬五千兩

(乙)事務所借賃、地圖其他圖面費用、事務所經常費、印刷費等二萬五千兩

(丙)本計畫中部分的の問題に關し其の專門技師の意見を徵し助力を受くる爲めに要する費用

一、最大型船舶を收容し得べき船渠港の閘門設計圖一般　千磅

一、深水深岸壁幷に棧橋の構造　五百磅

一、上屋幷に荷物取扱裝置　五百磅

一、河口準道工事の式及方法　二千磅

合計四千磅即ち約二萬五千兩

(丁)其他雜費　三萬五千兩

總計　銀二十七萬五千兩

(三)審査研究の結果は手頃なる印刷物の中に收め報告發表する事

第二　顧問技師委員會

改修局評議員會委員を任命す

任期は改修局調査開始の時より約一年とす

人員は一定せざれども五六名なる事
上海に於ける六海運國代表者たる評議員之を推薦す
其の他常任委員として技師長を改修局より出す事
評議員會より此の委員會に與へらるべき指令は
一、上海を改善して太平洋上の最深吃水船の出入に差支なき商港となし得るや否や
二、現在の出入口幷に水深の儘にては如何なる程度にまで上海を改善し得るや
を研究し改修局に報告する事
此の委員會は右の報告をなすを要するを以て調査技師より調査の結果に關して總て報告を受けるべからず
委員會に供給せらるべき諸材料、設計圖、圖面其他見積
黄浦江河口に關する地理、地位其の他水面に就きての調査は順を追ひて
其の都度印刷して各會員に報告する事
委員會事業の實行方法

調査開始後約一年にして其結果を別冊に纒め各會員に郵送報告する事
會員は之に依つて漸次に問題全部に亘りて考慮を練る事を得
前記の報告以外の事項に亘りては委員會より要求あれば改修局は調査の上報告を與ふ
調査完成し總ての報告が各委員に頒布せられ茲に基礎的材料全部用意せられたる時は直ちに改修局は委員會を招集し、六週以内の會期を以て上海に會議を開く事
此の會議に於て本問題に付き最後の決定を爲す事
會議に關する總ての費用は改修局之を負担す
顧問技師委員會の費用見積
委員數を七名とし、一九二一年に上海に於て開かるべき會議に出席の爲め出張幷に滯在費として一人宛二千磅、七名の中一人は改修局技師長なる爲に之を除き六名分の右費用は合計一萬二千磅即ち銀七萬二千兩
其の他雜費三千兩
合計七萬五千兩

[註]以上記載の凡ての豫定事項の外委員會の要求に基く臨時の調査事項あるべし

上海　一九一八年十二月十八日

エッチ、フォン、ハイ、デンスタム

右の提案に對して改修局評議員會はイ、シ、リチャード(英)ジャンナイト(佛)ガラーハー(米)伊吹山德司(日)唐(支)の五委員の出席を得て大正七年十二月二十日の會議に於て左の事項を決議せり。

一、本會は上海港の貿易幷に航運の爲めに南水道の改善幷に一等港たらしむる爲めの大改善は一日も早く實行するの必要あるものと認む

二、此の目的の爲めに本會は左の二事項を實行せん事を改修局に要求す

イ、大体技師長により提案せられたる順序により本調査を實行する事

ロ、最高三十五萬兩以内の限度に於て改修局の基金を使用する事、但し之が爲めに一九一二年に決定られたる事業の費用喰込み其の進行に障礙を來さしむる事あるべからず

三、本會は各本國に於ける港灣專門家の中より顧問技師委員會を任命す、顧問技師委員會は

イ、上海港現在の出入口幷に水深を其の儘とする事を前提とし

ロ、又は太平洋航行の最深吃水船を出入せしむる事を前提とし

上海港を改善するの能否を研究し、專門家の見地より最後の斷案的意見を發表す

顧問技師委員會委員は本會各會員の本國に於ける一流の港灣土木に關する專門家中より選任す

改修局の技師長は顧問技師委員會の特別委員として當然參加す

改修局は顧問技師委員會の爲めに銀七萬五千兩の限度に於て其の有する基金を使用する事を得

以上の港灣調査の爲めに使用せらるべき費用見積は總計銀三十五萬兩也

以上

以上の決議文に明なる如く、各國は顧問技師委員會の委員を選出する事を要し、又調査を實行する技師は何れ改修局より選任せらるべき筈なるが、我が國よりも相當の技師を出して之に參加せしむる事必要なりと信ず。

第十章　支那人の企業力

支那の面積廣大にして人口多く富源に豐なる事は余の屢々論じたる所にして、世人の齊しく異見なきものなり。然し乍ら一國の富强は單に自然の富源幷に勞力のみに因りて大を爲す事不可能にして、必ずや人の力即ち其の國民の企業心の旺盛に俟たざる可からず。例を云へば北米合衆國の如き、其面積に於ては支那に劣り、富源に於て略伯仲の間にあり乍ら、米國と支那との富强の程度を比較せば如何、餘りに其の差異の甚だしきに驚かざるを得ず。米國の大は資本の關係に因ると言ひ得べけんも、併し米國は建國當初より之を有せしには非ず、米國人は其の旺盛なる企業心を以て、頻りに英吉利の資本を輸入し、自ら大陸の富源を開發し、以て今日見るが如き隆盛を致したのである。印度も其の廣袤幷に人口は亦支那と相伯仲して居る。而して印度人自身には企業を爲すの力を有しなかつた。然れ共英吉利人渡來して一度之を自已の領土と爲すや、何等の拘束を受けず自由に其の資本を持ち來り、印度の豐富なる勞力と結合して、其の開發に力を傾注し、而して今日の富强を現實するに至つた。米國の天産、印度の天惠も共にアングロサクソン民族の白熱的企業心が籍つて茲に出で、是等諸國を富强に導いたのである。

支那が其の天産に富める事前顯二大國に劣らず、而して其の開發の極めて遲々として振はざる所以は、支那人に企業心の缺如せるを證據だてるものである。支那の開發が外國の企業家或は先進文明國の資本に俟つ事の大なるは勿論なるも、其國民が企業心の涵養なきに於ては、他より如何に力を傾注するも其の効果の期待に反すること大なるは明かである。又支那人中に動もすれば、外人の投資企業は自國の富を國外に奪ひ去らるゝかの如く心得、兎角神經質に陷り易く却つて外人の企業を妨礙するが如き傾向あるは、誠に支那の爲めに憂ふべき現象であると言はねばならぬ。「資本は憶病なり」といふ俚諺があるが、支那に於て如上の如き傾向の存在は、聽て支那に對する外人の企業を冒險的ならしめ、投資の安全を期する譯に行かなくなる。

支那に對する外人の投資を躊躇せしむる最大原因は、第一に政治上の間斷なき紛爭あり、第二に支那人に猜疑心多きに在り、此の事實に基いて外國の資本家は

安心して對支投資を行はず、先づ自國に於て恰好の事業を見出し、之に着手して尙ほ資本の餘裕あるに非ざれば支那に手を染むる事無きは自然の數と云はねばならぬ。資本家既に然り、企業家と雖も又同樣にして、他に安全なる企業地あるに態々好んで不安全の支那に來るべくもない。人材も亦同樣であらう。然らば既に支那に入り來れる外國の資本幷に企業的人材は理論上、先づ大体に於て他の餘りものと觀察される。於茲乎支那をして投資的安全地と爲し、外國の資本幷に人材を充分に輸入するに足る力を養はしむる事最も肝要となる。富源の如何に豐饒にして勞力の如何に豐富なりと雖も、之等と結合すべき企業力の不充分なる時は、支那の經濟的開發は印度若くは米國の如き急速なる進展を見る事不可能である。そこで假りに支那の爲政家が外資の輸入を圖り、企業家の渡來を歡迎して、其等の招徠に努むと雖も、國民一般に企業心を發達せしむるに非ざれば、期待すべき開發の事實化は到底困難なるが故に、先づ支那人の訓練を必要とし企業的組織的方面に馴致せしむるのが最も急務である。又一方政治上の安定、國內秩序の統一は夫れ以上の緊要事である。而して地方の秩序を維持する爲には完全なる警察制度を必要とするが、其は又特別のものでなければ不可ぬ。支那には外國を相手として戰ふべき陸軍を要しないが、警察權を行使する憲兵制度は、地方の安寧を保つ爲めに最も適當の制度であらう。如上國民の企業心を養成する事と、政治上の安定を保つ事の完全に行はるゝに至らば、外國の資本は容易に入り來るべく、外國の企業家も進んで支那に於て事業を經營するに至るべく、又支那人も外國人と協力して富源の開發に鋭意努力するに至るべし。支那は外國の資本、外國の企業家を利用する事に就て決して躊躇すべきでないと同時に、外國人の扶掖指導を受くる事を怠つてはならぬ。日本の今日を得たるは外國人より享けたる敎育が與つて力ある。明治維新後官省の各要路や、民間事業の經營的顧問として潤澤なる報酬を與へて多くの外國人を聘用し、其の敎を受けし事甚大であつた。支那も斯かる點に於て狐疑する事なく、ドシ〳〵積極的方針を採つて進むと同時に、一方青年に企業的方面の敎育を施し、國利民福を圖る事に着々染手し、其の實際的効果を擧げて欲しいと思ふ。

支那の富源は如何に巨額の資本を投ずるも過剩を感ずる事なく、將た又如何に多數の企業家が渡來するも其の過多を嘆ずるの憂なければ、支那の爲政家は民間識者と協力して企業力の養成に努め、以て立國の基礎を鞏固にすべきである

第十一章　結　論

對支那貿易政策

列國の對支貿易政策は、余の見る所に依れば世界開放主義の一適用であらねばならぬ。然らば世界開放主義とは如何なる意義を有せるものや、一言にして盡せば、世界中、洋の東西と南北たるとを問はず、又有色人種たると無色人種たるとに拘はらず、全人類に對し平等に世界を開放する事是である。換言すれば米國の亞細亞人排斥法案、濠洲の有色人種拒絶法等は此の主義に背反するの著るしきものにして、勢力範圍の設定、大亞細亞主義の思想等も又之と相容れざる事言を俟たない。卽ち世界開放主義は人道の大義に基き、人種的差別の偏見を認めざるものである。此の主義は必ずしも余の獨創ではなく、日本人中にも同主義を有するもの若干ありと思ふ。米國ジェームス、ダブリユー、バッシユフォード氏は此の主義を最も明確に表明して居るが、氏は其の著「チャイナ、アン、インタープレテイション」の第十八章に於て、

白人は黃色人種を逐ひて大陸の何れの部分に於ても安住するの餘地なからしめんとして居る。千八百四十八年には葡萄牙は殆んど十萬方哩の地を占領し、白耳義は九十萬方哩、獨、露は各百三十萬方哩、合衆國は百八十萬方哩、佛蘭西は三百二十萬方哩、英吉利は三百六十萬方哩、合計一千三百二十一萬方哩の地を、過去七十年間に於て直接白人の手に併合したり。地域に於て實に歐洲全土の約三倍半に當る。現今にては白人は亞細亞人を歐洲、亞弗利加、南北亞米利加濠洲より排斥して彼等の居住を許さず、亞細亞人を單に亞細亞の一小部分に局限せんとする傾向あるは、非基督敎的にして人道上恕すべからざる事なりと、實に然りと言ふ可し。白人は世界を自己の有なるかの如くに錯解し、有色人種を驅逐、排斥する耳ならず、進んで有色人種の繩張りに屬する永住の地域をも侵略せんとするに至つては眞に許す可からざる行爲である。

支那の如き人口多き民族が、其の過剩を移民せしむる地を得ざれば生活の程度漸次下降して下劣となるは必然の成行にして、是等を考慮する時は、北米の亞細亞人排斥法案は宴に不都合極まるものにして、濠洲の移民拒絶法も又不條理至極である。殊に印度人が亞弗利加、加奈陀等に行きて居住し得られざるが如きも

亦何等理由なき事である。世界は全人類の爲めに存在せるものにして、一部民族の專有に歸すべきものでない。

世界の開放は全人類の爲めに諸民族共存の目的の爲めに實現すべきものなれば、之を時代に順應し國家に適用する場合に於て、或は奴隷の開放なり、或は開國の國是に依り內外人待遇差別の撤廢とも爲る。而して之を對支貿易上に適用すれば、門戶開放、機會均等に歸するのである。其の世界開放主義の適用は、機會均等、門戶開放と云ふ事に於て可成的徹底的に爲されなければならぬが、其處に至る過程として、或は相互的開放若しは相互的利益交換等より進まねばならぬ。即ち一國民の利益の爲に他國民の犧牲を拂ふが如き片務的政策は絕對に排斥するを要す。

世界が支那に對して門戶開放、機會均等を要求する如く、支那よりも亦他に對して機會均等、門戶開放を迫らなければならぬが、夫には現在の支那の力に於ては餘りに不充分である。自國は開放するも他國は閉鎖され居るのが現在の實態なるが、之が同等に相互的に開放さるゝには、支那の富强が他國と同列の域に達する事を必要條件とする。

要するに支那の富强が充分ならざるが故に、列國が支那に臨むに門戶開放、機會均等主義を以てするも、支那が列國に對して相互的開放を强ふるを得ざるのである。隣邦たるもの此に同情して、以て之を誘導し、富强の域に進ましむべきである。而して其の手段としては先づ彼の富源開發を助成するのが急務である。鐵道、礦山、農業、林業、築港、道路修築、運河開鑿等に對し、各國の資本投入を容易ならしめ、且つ各國より大小の技術家を招徠して之に從事せしむる事が、支那の富强を大ならしむる根本要件である。此の事は前項に於て繰返し述べた所であるが、斯くの如くして各國の投資を自由容易ならしむる事は亦門戶開放、機會均等の適用に外ならない。同樣に沿岸航路、內地河川の開放も亦機會均等、門戶開放の適用であらねばならぬ、と云ふは支那國旗のみの汽船にては沿岸若くは內地商業を發達せしむる事不充なるが故である。而して此の沿岸航路の開放も斷じて片務的であつてはならぬ。必ず相互的に行ふべく、假へば支那が米國に對して沿岸航路を開放したりとすれば、米國も亦支那に對して之を開放するを當然とする。日本に於ても然り、寧ろ日本は進んで其の沿岸航路を支那人にも將た又英國人にも開放して、以て支那をして相互的に其の沿岸航路を日本や英國に對して開か

しむ可きである。

更に支那の貿易をして、世界貿易と云ふ大なる見地よりして、將た又列國が支那に對して商業上の機會均等の意味より見ても、貨幣の改良、度量衡の一定、商品品質の統一が必要なる條件の一なる事は云ふまでもない。貨幣制度は要するに大多數の貿易國と同一本位を採用する事が肝要である。然らざれば其の貿易は投機の如き性質を帶ぶるに至る虞がある。度量衡の一定せざる事も商業取引上非常の不利なる耳ならず、奸商の乘ずる所となる可く、商品々質、等級の一定せざる事は取引者に取りて甚だ不安にして、貿易上兎角の爭を生じ、之も亦頗る不便なり。故に貨幣制度は金本位を成る可く速かに實現し、度量衡を明にし、適當なる監督の下に商品々質の統一を計る事最も緊要である。

又支那の開發の爲めには各國民の內地雜居を認容する事必要なれば、其の機運の促進に努めざる可からず。夫には治外法權の撤回を要するが、併し之を突然に實行するに於ては、外國の企業家をして不安の念慮を釀さす虞あれば、過渡時代に相應の權宜的措置を以てすべく、殊に政爭多く、秩序の安固ならざる支那に於ては、須らく鞏固なる制度を確立して法治の實を內外に表示する事肝要にして警察制度の改善は其の中最も緊切なるものであらう。而して治外法權の撤去幷に內地雜居の問題と同時に、居留地制度の問題も解決せねばならぬ。此の問題に關しては曾て論じたる事あるが、夫は附錄として卷末に掲ぐ。

世界貿易上より見たる上海と長江（終）

附錄一　上海の市政

現在の上海なる一種の公的團體が、法律上果して如何なる性質を有するや、之を國際法の觀念より研究し、行政法上より觀察し、又私的に考覈する時は、幾多の疑問を生じ、夫れ丈け興味深き問題たらんも、其は暫らく措き、兎も角も現實に否定し難き一事實としての上海を其の從來の沿革より現在如實の狀態に關し、延ひて將來の運命に及んで、以下一通りの研究を試みたいと思ふ。

上海の市政は現今の狀態に推移せし迄には、區劃し得べき三つの時代を經過せる事を認む、卽ち

「第一」　創業時代――專管居留地時代

一八三二年東印度商會のヒウ、ハミルトン、リンゼーが軍艦ロード、アムハーストに坐乘し、上海に上陸してより一八五三年長髮賊の亂に至る期間

「第二」　混沌時代

一八五三年長髮賊の亂より現行土地法制定の時、卽ち一八九六年ランド、レギ

ユレーションの改正され、北京政府幷に各國政府の之に對する承認の時迄

「第三」　現制時代

一八九六年改正の現行ランド、レギユレーション制定の時より現在に至るにして、以下右の三期に分つて、上海發展の過程を概觀したい。

第一節　創業時代

創業時代は南京條約より始まり、其の以前に東印度會社々員の先覺者中廣東を貿易上不便なりとし、更に北方に恰好なる貿易港を見出さんとする者あり、就中同社ピグーは先づ上海に着眼せるが、當時貿易は充分發達せず、上海を開く時は廣東の東印度會社に對し競爭の形となる虞れありとの理由に依り反對せられ、折角の計畫も沙汰止みと爲れり、是れ一七五六年頃の事である。其の後一八三二年ヒウ、ハミルトン、リンゼーは軍艦ロード、アムハーストに乘じ、チャールス、ガスラスを通譯とし、日本に赴くものゝ如く裝ひて、厦門、福州、寧波を經て終に上海に來れるも、然し當時支那人の排外思想旺んにして、開港の目的を達するに至らざりき。次いで十年を經過して阿片事件發生して、英支兩國間に干戈を交ゆるに至るや、即ち一八四二年六月、前記リンゼーと共に來滬したるガスラフを同じく通譯とし、サー、ウキリアム、バークスが艦隊を率ひて上海天后宮（現在の日本旅館東和洋行の對面）に上陸し、一方サー、ヘンリー、ポチンヂャーも來り會して、四海兄弟、世界交通の天理人道なるを支那文にて告示し、六月二十三日全軍は上海を一應引揚げたるも、結局南京條約に依りて上海を開港するに至つた。而して該條約は租借地の事に一言も及ばず、唯だ上海を外國に開放するといふ一事に止まりしも、サー、ヘンリー、ポチンヂャは南京よりの歸途上海に立寄り、將來居留地とすべき地點を豫め檢分測定する所あり、其の翌年一八四三年十一月九日マドラスの砲兵大尉バルフォアが最初の英國總領事として來任、同月十七日上海は初めて外國貿易港として實際に開放せられた。

上海開港後は英國商人等の渡來する者多く、彼等の中には永住的計畫を以て土地を借受け、或は購入せんと欲する者ありたれば、茲に於てバルフォア領事は一定の地を區劃し、其の區域内に英人を居住せしむる事幷に土地讓渡の認可に付き、支那官憲に交渉する所あり、結局其の區域内の土地を英國領事の管理下に置

き、個人間の土地賣買を許さず、土地所要者は英國政府より之を買取る如き形式を採り、又英國人以外の外國人にして土地を得んと欲する者は先づ英國領事に出願し、其の許可を得るを要する事に定められた。此の際領事と道臺との間に一の土地法の協定を見たるが、之に依れば明確には規定せられざるも、土地所有の關係は稍や專管居留地式の色彩を帶びて居る。卽ち其の地域內の土地所有者は一團と爲つて居留地の管理に關して責任を有し、而して英國領事の指名せる主なる者三人は道路、棧橋其の他公共的營造物の管理監督に任じて直接の責任を負はしめ、又市の經費に不足を告ぐる時は、居留民の公會を開き、之に對して、相當の處置を採るの權能を與へ、領事は之を監督し、此の規則の改正には英國領事と支那政府との承認を要すとある。而して此の規則には英國人以外の外國人も服從するの義務あるものとなり居たるが、英國人以外の各國人民の上海に入り込み來る者逐年多きを加へ、各國領事館等も設置せらるゝに至り、英國人以外の外國人に對する土地法の效力に關して種々の問題を惹起するに至りて、漸く米、佛等も各專管居留地の獲得を欲するの機運を作つた。卽ち一八四八年佛支條約に依りて、佛國先づ專管居留地を得んとし、米、白も之に續いて同樣の試みを爲し、終に一八九四年佛國は洋涇濱の南に居留地を得、殆んど之と同時に米國人ビショップ、ブーンは虹口に居留地を設けた。されど此處に謂ふ米國居留地に就ては、支那との間に正式なる條約上の根據を有するや未だ疑問の存す處なれど、茲には暫らく問はず、斯の如く英國居留地が專管居留地たるの色彩を有したる爲め、之に次いで他の米、佛の居留地も同樣に英國の方針に倣つた。然れども米國領事グリスウオルドは專管居留地主義に反對の意見を有し、曾て英租界內に於て米國旗を揭げて英國の抗議を受けし事あり、又米國領事は佛國の專管居留地にも反對なりしが、之は佛國が獲たる居留地域は、佛國に先だつて米國が申込める關係に基づくものにして、之が爲め米佛の間に爭議あり、米英の間も前記の如き面白からざる關係に在り、而して英佛の間も又圓滑ならず、三國相幷び立ちて互に勢力を爭ひ、事件の發生は斷ゆる間がなかつた。此の時代に起りたる主なる事件は英國領事バルフォアは旣に辭任して在らず、アルコック之に代り居たる頃に、福建ジャンクメン事件、卽ち宣敎師メドハースト外二名がジャンク內に連れ行かれ半死半生の目に遭遇したと云ふ事件である。原因はランソムを獲ん目的なりしが如く、幸にメドハースト等は救助せられたるも、英國領事は之を機會として

強硬なる交渉を支那政府に提起して居留地を擴張し、且つ現在の英國領事館の土地を得、大いに國威を發揚した。當時の通譯は又極端なる大英國主義者サー、ハーリー、パークスであつた。之より四五年を經過したる後、清朝を顚覆せんとせし長髮賊の亂勃發し上海も其の渦中に投じて混沌たる狀態に陷つた。

第二節　混沌時代

一八五三年長髮賊の上海に來襲し縣城に迫るや、吳道臺は各國領事及び碇泊中の英國軍艦に援助を求めむると同時に、外國人の財產は約二千五百萬磅にして、各國居留地も危險に脅かさるゝ形勢を觀取したる道臺は、上海全體を各國共同保護の下に置かん事を提議したるが、領事側は之を承認せず、唯だ居留地の危險に瀕したる時は自ら保護す可き事を支那官憲に宣明するに止まり、而して後長髮賊の排外的布告を爲し、騷擾容易ならざるを見て、サー、ジョージ、ボナムは南京に至り支那官憲に警告する處があつた。一方居留地の防禦に就ては同年(一八五三年)四月八日、九日、十二日の三日間居留民大會を開き、英國領事アルコック議長と爲りて、各國民協同一致の必要を力說し、米佛領事も意見を同ふして英、米の義勇隊組織となり、陸海防禦委員も設置せられた。而して共同租界の胚胎は實に此處に在つた。同年九月七日に亂賊衙門を襲ひ、城內に於て殺戮を專にし、終には居留地に侵入し來り、支那稅關を破壞し去りたれば、貿易商中に、條約上の義務を履行せんとする官廳の破壞されたる以上、關稅納入の義務なしと主張する者出でゝ一問題と爲りたるを以て、各國領事は之に關して協議する所あり、英國領事は之を領事館にて徵收保管し、再立の曉に支那官憲に交附せんと主張した。時に南京城は長髮賊の爲めに陷落したるを以て上海に恐慌起り、支那人の資本引揚げられて上海の商業は一時停止の狀態に在つた。故に貿易商は在庫品の始末に窮して未捌品に對し關稅を課するは到底其の負擔に堪へざるを訴へ、保稅倉庫を開設し、商品の賣買受渡の際に課稅を徵せん事を請願し、茲に保稅倉庫の出現を見るに至つた。英、米領事は前述の如く公正なる考を有したりしが、丁、佛、洪、普、墺西、遲等の領事は仍ほ無稅說を固執して上海を自由港たらしめんと主張し、議論區々たりしが、之が調停策として英國領事は稅關に外國人官吏を設置する事を發意し、之に決定して最初の外人の稅關吏として英一人、米一人、佛一人を入れ外

國人政治の支那稅關を形成し、一八五四年七月十二日より現在の地に於て公式に執務し始めたり。是と同時に租界の土地法改正せられ、十四箇條より成る規則の發表を見たるが、之に據れば

一、居留地の境界
一、土地取得の方法
一、賣買讓渡の條件
一、土地の公用徵收
一、境界の石標
一、支那人の土地に對する課稅法
一、道路、棧橋
一、外國人墓地、支那人墓地
一、酒類賣買取締
一、風俗取締

等其の主なる點なり。而して七月十一日英國領事館に於て居留民總會開かれ、從來の土地法に依る道路、棧橋の委員を解散し、新に市參事會員選擧せられ、同會席上アルコック領事は、各國居留民は宜しく共同一致して、自ら一般在留民の權利及び共同の利益を保護せざる可からず、共同租界として皆一團と爲らざる可からずと云ふ意味の大演說を試み、同時に前述の土地法の外上海市の制規を作り自治制の運用に適合せしめた。斯の如く自治制成りしも、一方長髮賊の亂は未だ終熄せず、支那の民心惴々として安んぜざれば、上海居留地の比較的安全なるが故に支那人の漸次入り込み來る者多きを加へ、居留地の平和脅かさるゝより、茲に警察の必要を感ずるに至つた。

然るに當時(一八五四年)居留地在住の外國人は僅かに三百人なりしに對し、支那人の居住者二萬を超へ居たれば、警察設置の費用を全部外國人にて負担するは不條理なりとし、支那人にも家屋に課稅して以て費用の一部に充當せんとした又支那人の上海移住者益々多きを加へ來るに對しては、英國領事は之れが入市を禁ずるの案を出したるも、英人貿易商中には却つて支那人の入市を歡迎する者ありて、領事の命令に反對し兩者間に露骨なる爭を生じ、或る有名なる同國商人の如きは領事に肉迫して、貴下は英國の領事なる故に英國の將來の利益、体面等に關し考慮する所あらんも、余等は金儲の外何物も眼中に無し、低廉なる家屋

を支那人に貸與し三四割に廻はす事は大いに利益なり、余等に永住の意なし、可成的速かに金を儲けて本國に歸臥せん事を望むのみなり等稱する者ありたるが、斯かる思考は當時在留民一般に抱懷せし處のものであつた。上述の如く支那人の上海移住者激增を防止せんが爲め、英國領事は上海を全然支那の手より離れたる獨立都市たらしめんとするに對し、北京駐劄の英國公使サー、ブレデリック、ブリユースは反對の意見を抱き、常に支那人の權利を尊重し、支那人に課稅する場合は支那政府の同意を要すとの主張なりし爲め、支那人は居留地の庇護の下に在り乍ら家屋稅の賦課を諾せざるに至つた。斯かる中に佛本國に於ては共同租界に加入する事を好まず、一八九四年に他より獨立して專管居留地を維持する事になつた。

長髮賊の亂後租界の財政は甚だ窮乏し、中には市會議長の報酬をさへ支那政府より支給せしめんとの案をも出づるが如き有樣にして、勿論之には猛烈なる反對もありたるが、畢竟するに斯くの如きは所謂貧乏世帶に爭絕へずで、常に面倒を生じ、又各國居留民と支那人との間にも屢次事端を發したるも、法制明かならざる爲め、新たに會審衙門なる裁判所を設け、外國人と支那人の會審官を以て構成する事にした、時に一八六四年である。尙市參事會の權限に就ても屢次法律問題を生じ、市の課稅權の有無に關する爭議が常に問題の中心となつた。一八六五年佛國領事裁判所に於て、バツシユ、マン事件なるものあり。又一八七五年には米國領事館法廷に於てフオツブ事件等の發生あり、後者は米國人フオツグが市の課稅權を否定し、米國人民はコングレスの通過せる法律に據るに非ざれば稅を賦課せらるゝ事なきを主張し、且つ米國領事は如何なる權限に於て在留米國人に課稅をなすやと質問し、之に對して領事は、ミユニシパルの規則は條約に於て認めらるゝ所なり、條約はコングレスを通過せる法律に非ざるも、米國憲法上一般的に認めらるゝものにして、コングレスも間接に之を承認せるものなりと甚だ不徹底なる說明なりしも、結局フオツグの敗訴に歸して事件は落着した。斯かる問題は其後も度々發生したるが、市參事會側の勝訴に歸するを常とした。一八六三年虹口の米國租界が共同租界に公式に合併せらるゝに至りて、曩の一八五四年制定の土地法を改正するの要あり、乃ち改正土地法案を出來した。之は現行のものに等しく市參事會員は九名とし、其の責任權限を明白に規定して居る。此の改正法案は附屬法と共に一八六九年に至りて、北京政府幷に北京公使團の承

認を得、同時に佛租界は爾後明白に獨立せる事を確められた。此の頃より始まつて支那政府は上海の市政に全然容喙せざる事となり、上海は獨立せる一種の共和政府の如き觀を呈するに至つたのである。又當時上海の領事團より市參事會員選擧權の擴張を提議したる事ありしも、北京公使團は好ましからざる有權者の增加を不可と爲し、之に承認を與へず、依然極端なる制限選擧制を持續した。一八八三年には更に上海より北京公使團に土地法改正案を提出したるに十五年の久しき間搁置せられ、一八九六年再び之が認可を申請し、特別委員の審議を經て、一八九八年に至りて始めゝ北京政府の承認を得、同時に支那政府は爾今上海租界の自治に關涉せず、租界の行政は市參事會と領事團との間に然る可く協定すべしと公然に宣言を發表した。其の結果として居留地の擴張行はれ、從來一萬畝餘の地域を擴大して、三萬二千畝即ち八方哩餘となりたるを以て、豫て獨支間の交涉案件たりし獨逸租界設置も自然消滅となり、今日見るが如き大上海を形成するに至つた。而して上海領事團は支那の利益殊に衞生、警察、租稅等に關する問題に付、道臺より三名の支那人委員を選出せしめ參事會と協議するの一組織を設置せんとする一項を上述の提議書に加へたりしが、之は公使團に於て否認せられた。

第三節　現制時代

現行ランド、レギュレーションは千八百九十六年の特別委員に依りて立案審議せられ、同九十八年に北京公使團の承認を經たるものと記憶する。其の規定の內容は

一、居留地の境界
一、土地取得の方法
一、地券
一、土地の登記
一、土地の讓渡
一、土地の公用
一、道路用土地の公用徵收
一、道路、棧橋、土地家屋の評價幷に課稅

一、借地人
一、納稅者總會
一、地主會
一、細則規定の件
一、財政監督
一、訴訟の件
一、細則に依る罰金
一、各國領事の土地所有者招集權
一、墓地
一、市參事會員の選擧幷に選擧權
一、市參事會員缺員の場合の補充
一、本規則改正の方法

等三十箇條より成り、外に四十二箇條の附則がある。即ち市制構成の大体を云へば、ランド、レギユレーションは上海の憲法にして、最高行政機關は市參事會である。而して上海の憲法たるべきランド、レギユレーションの改正は、公使團と支那

政府の承認を經ねばならぬので、事頗る煩瑣であるが、バイ、ローの方は市會に於て任意に制定する事を得るが故に、實際上必要なる大部分の項目はバイ、ローに讓り、市政の運用に支障なからしめた跡がある。市參事會は上海居留地全体の安寧秩序を保つ責任あり、又公共的營造物を管理し、其の費用の爲めに市會の決議を經て必要なる課稅をなす權利あるが、又訴訟の相手方となる。然し之は個人的には責任なきものにして、例へば公共的營造物の擔保となるも、之が爲めに個人的責任は一切なきものである。而して其市參事會員選擧の方法は、上海に居住する支那人以外の人民にして一定の稅額を市に納付する者は、國籍の如何を問はず總て選擧權所有者とし、即ち一言にして云へば、原則として上海居留地内に住む支那人以外の凡ての人は皆自分の欲する人を選擧して行政を委任し、一方各國の領事は領事團として監督の任に當り、且つ又其の所屬臣民に屬人法の範圍内に於て保護の任に當る。然し前述の如く其の發達の歷史に徵するに、英國領事始めて口を開き發案を出して、他は之に續いて參加せし事情あるが故に、上海行政の組織、精神は英國流を基礎として居る事は已むを得ない。而して現在此の市參事會員を國籍別に見るに、英國人六名、露國人一名、日本人一名、米國人一名總計

九名であるが、米國人、露國人各一名あれ共、彼等は其の自國民のみの投票に依りて選擧せらるゝ事困難にして、日本人の投票權も又全投票權數二千何百票に對し僅に二百五六十票を有するに過ぎざるが故に、外國人より幾百票かの好意的投票を受けざる可からざる狀態である。

第四節　市の將來

余は以上に於て不完全ながら市政の過去及び現在を概述した。次に將來の運命に付いて少しく考慮を加へて見たいと思ふ。

這次大戰後世界各國民の思想は一大變化を來さんとする傾向顯著なるが、上海は各國民の寄合世帶なる丈け、夫れ丈け其の影響を蒙る事は他より多かるべく思惟される。民族自決、世界解放の思想は殘れる二十世紀を支配せんとする勢威を示して居るが、此思潮の影響は支那に對しては門戸開放となるべく、內地雜居は事實化され、或は領事裁判の撤回となるであらう。先進文明國民の誘導の下に案外早日に之が實現せらるゝに於ては、上海の居留地問題も比較的速に一大變革を見るかも知れぬ。然れ共若し支那の覺醒晩くして、上海の市政も從來の歷史が追ひたる跡を、尙ほ將來も辿り行くものとすれば、畢竟次の二問題が後に殘されて居る、即ち居留地の擴張幷に選擧權の擴張である。近時租界內の人口は增加著るしく、益々稠密に趨りつゝある一方、租界道路の市外附近の各方面に延長せらるゝに從つて、郊外居住者は漸次增加し、在留外國人の住居圈は近來大に擴大した。所謂大上海は租界の內外に亘つて非常に膨張して居るのである。而かも其間に行政上の統一無き爲に、治安、警察、衛生上の取締等に少からざる不便を感じ來り、最早依然たる狀態を繼續する事は到底不可能にして、早晩居留地を擴張すべき時期の來るべきは疑問を挾む餘地は無いのである。而して租界を擴張すれば自然の勢として、選擧權所有者の數も增加すべく、加之に近時支那人は稍や覺醒し來りたれば、何時までも屈辱的の待遇を受くるを潔しとせざるべく、殊に上海を以て四百餘州何れの土地よりも、生命財產を託するに最も安全なる地と爲し、來住するもの逐次增加の傾向あり、從つて夫等のものが市に納むる稅額も尠くない。然るに斯かる負擔を有しながら市政に參與するの權利は認められて居ない。上海には智識階級に屬する支那人を比較的多く網羅し居るが故に、居留

地制度に憤慨する者多く、從つて租界擴張が彼等に何等の權利を與へないものとすれば、支那人側より之に反對の聲の揚がるものと豫期せねばならぬ。上海を以て安全地域として來住せるものより、其の安全區域の擴大に反對の聲を耳にすべきは一見奇怪の感あれ共、其處に人心の機微は存するので、彼等の心理狀態を推せば當然肯定さる可きものである。而して外國人中に於ても、米國人の如きは支那人を誘導して、成る可く其の歡心を購はんとする現情なれば、幾分にても支那人の權利を縮少する如き運動には遽かに與せざるものと見ねばならぬ。然らば非常なる勢を以て膨脹しつゝある上海は、將來は如何に取扱ひて然る可き乎。從來上海を以て全然支那の主權より獨立せる自治團体として、支那人に對し何等市政に干與するの權利を與へざりしも、然し近時必要に迫られて居る租界の擴張を實現せんには、市參事會の選擧權を幾分にても彼等に與ふる事當然にして又緊要事ではあるまいか。各國の對支政策上より云ふも、支那人の覺醒程度に應じて漸次彼等の權利を認め行く事穩健にして、又至當なりと信ぜらる。卽ちランド、レギユレーションに規定しある稅額を市に納付する者は支那人たると外國人たるとを論せず、均しく選擧權を與へらるべきである。斯くの如くして外國人は支那人と共に市政を料理し、支那人を文明的氛圍氣の中に漸次抱容し、訓練を爲しつゝ啓發し行かば、必ずや相當の効果を收め得べしと信ず。市參事會員なるものは公正なる批判力と公共事業に與かる丈けの人格を要する事勿論である。故に假令支那人に選擧權を擴張するも無暗に如何はしき人格者が市參事會に出で來るを恐るゝが如きは眞に杞憂に過ぎない。若しも支那人が大多數を占めて、歷史的自活制を破壞するが如き事あらんには、其は誠に支那人の爲めに採らざる所にして、支那人が賢明に先進諸國の經驗を尊重師事して、之に學ぶの雅量を有し、先進諸國民も又支那人を誘導啓發して、相共に、自治制の發達に努めウエル、フエーヤを進めんとするの精神を抱懷するならば、上海は必ずや獨立せる自治市として、將來も永く光輝ある歷史を記錄して行くであらう。（完）

附錄二　上海共同租界の兒童教育

抑も教育の目的は如何。或は國民を作るを目的とするものなりと。或は單に人間を作るを目的とするものなりと。或はパンを獲るの方法を授くるものなりと或は善良なる市民を作るにありと。果して孰れを主たる目的とすべきや、上海に於て特に之が研究の要を痛感す。國家より云へば、その國家に忠實なる國民を作るを目的とすべし。日本は大和魂を有するものを、獨逸より云へばヂャーマン、スピリットを有する國民を作るを目的とすべし。然れども元來此の國民教育は、一方に偏重する時は或意味に於て非常に偏狹なる人間を作る事あり。英人の教育が、英國民を作るといふ如き國民的色彩を帶ぶる事尠く、元來が幼時よりバイブルを以て育てられ居る故に、その學校教育も亦圓滿なる個人性の淘冶、高尚なる紳士道の體得、又は善良なる市民の養成を以て主眼とせる如く見ゆる。曾て一英人問を發して曰く、若し貴下が潛航艇に乘組めりと假定し、政府より無辜の良民を登載せる敵國商船の擊沈を命ぜられたらんには如何にするやと、余は之に答

へて曰く、戰時中政府の命令なれば已を得ざらんと。その人は、英人は決して然らず、斯の如きは人道上許すべからざる事なり、之が爲め國家のために不利益なるも致し方なく、又假に死を以て命ぜられたらんには寧ろ死を擇ぶべしと。一片の言辭實行の能否は別として、英人が一般に抱懷せる思想の傾向を察するを得べく、從つて英國の教育が主としてヒユーマニズムの根據の上に建てられ、コスモポリタニズムに近く、之と兩立し得る所以を知るの資となすに足らんか。

扨て上海の教育は如何、如何なる方針の下に進ましむべきか。哲學的、科學的に未だ研究せられたるものあるを聞かず、然れども兎も角工部局の經營せる學校あり、私立にして工部局が保護しつゝあるものあり、上海に利害を有するもの何等かの定見なかるべからざる也。若し上海が一の共和政府なりとせば、その下にある各人は上海なる特殊の國家的團體を構成しつゝありといふを得、果して然らばその教育の目的は斯かる特殊團體の構成に適當なる分子を養成するにありや、決して然らず、斯くの如き狹き意義のものなるべからずと信ず。單純に自然の前に一個の人間として圓滿なる人格を育て上げる事が其の眼目ならざるべからず。之が共同租界の費用の下に經營せらるゝ諸學校教育の目的ならざるべからずと考ふ、決して何物にか偏倚せる色彩を持たしむべからず。一歩を進めて言へば、ヒユーマニズム、コスモポリタニズムの上に根據が置かれざるべからずと信ずる。然らば現今實際に上海に於て如何なる教育が行はれつゝありや。凡そ現在の世界の狀態より言つて個人にして國籍を有せざるものなし、故に上海の教育を司どるもの亦無國籍人なる能はず、自然上海の教育は上海をプレドミネイトとする國民の流義に支配せらるゝことゝなるなり、實際上英國流なり、用語も英語が採用せらるゝ所以なり。之に關聯しクラム教授の所說中面白き一節あり

昔歷山大帝將に東方遠征の途に上らんとするの前夜、哲人アリストートルを引見してその說を聞けるに、哲人云へるあり。「多くの土地、多くの人民は新に陛下の支配下に來らんとしつゝあり。夫等の人民の中には學藝に秀でたるものもあらん、野蠻未知の民もあらん。就ては最後に一言を獻じたし、如何なる勝利を獲らるゝも、陛下は陛下が希臘人なる事を忘れ給ふべからず。而して如何なる土地に於ても希臘人と之等外國人との間には强く明かなる一線を劃して區別することを忘れ給ふ勿れ」と。時に齡ひ廿二歲の大帝は曰く「余は然らず、余は他の政策を採るべし、余は凡ての人民を希臘人となすべし、之こそ余が戰勝

の目的なり」と。一軍政家の言も一度は大哲人の思想より一層深きを語りたり二世紀の後希臘の一著者は此の大帝の言の偶然ならざりしを頌せり、即ち多くのローマ領土内に希臘思想の根深く植付けられあるを發見した。之と同樣に現代の英國にして其の國是の中に帝國主義含まれ居るとすれば、そは單なる領土擴張にもあらず、又植民地を驅使して本國を肥やさんとするにもあらず、英國が過去二世紀中の間に於てなせしは英國思想を其の勢力圏内の人民に傳播せる事是れ也。之がブリチッシュ、インペリアリズムの目的たるなり。此のクラム教授の說は或る意味に於て事實を語れるものと云ふべし。一八七三年合衆國が獨立して以來、加奈陀、濠洲、南亞等の植民地に自治の權を認め、之等を英國色を有する自治團體となし、最近又印度に對し自治の權を賦與し、更に又一つの英國色を有する自治的團體を作り出さんとす。之れ單なる領土擴張にあらずして、見樣に依りては英國思想傳播の結果に外ならざるなり。然り而して現時上海に於ける英國人の遣り口を見るに、亦茲に所謂ブリチッシュ、インペリアリスムの實行を爲しつゝあるに非ざるなきか、假令英國人自身は意識的に行ひ居らずとするも、上海の行政に於て、教育に於て、社交に於て彼は正に英吉利思想、英吉利流義の普及傳播を計りつゝあり。單に工部局の行政を見、パブリック、スクールの教育を見、義勇隊の組織を見、志願巡査の制度を見ても容易に首肯し得る所なりと信ず。然らば英吉利思想とは如何なる事を意味するや。佛蘭西のエガリテの如き獨逸のフアターランドの如く、日本の忠君愛國の如く、英國民一般が提唱する所の題目はフリーダムなり。リヴアテイなり。リヴアテイと云ひ、フリーダムと云ふも、要は人道主義の上に建てられる徹底せる一種の個人主義なるべし。即ち個人自由の尊重なるべく、獨立自尊の精神なるべし。此の思想には國家的、國民的要素は强く含まれ居るにあらず、寧ろコスモポリタニズムに近く、之と兩立し得るものなりと思ふ。故に上海に於て此の思想を傳播普及する事は比較的容易にして、將來も永くインフリユエンスを持續するの可能性に富めりと云ふべし

茲に於て上海の日本人の教育が如何なるべきかを研究したし。日本明治年代の普通教育は全然信仰的、熱愛的忠君愛國の思想により統轄せられ、大正年代に入りて立憲思想の幾分は小學校の教科書中に入れられて。將に理解ある忠君愛國の思想に移らんとする過渡期にありと云ふべし。之を上海に就いて云ふに、此の地は更に内地より事情を異にせる點多きを以て、斯かる所に生れ、斯かる所に

育ち、成人しても交るに多くの外國人を有すべき兒童に對し、餘り偏狹なる敎育主義を固執するは結局不結果を來すの基となるにはあらざるか、國民性を破壞せざる限度に於いて充分周圍に順應せしめ行く方針を採ること、永遠に亘り行くとして覆へる事のなき根底强き方策なるにはあらざるなきか。人類の努力は國家の爭鬪のために爲さるべからず、宜しく自然に對する爭鬪に向つて爲されざるべからず。即ち自然の開發にあり、自然の征服にあり、未開國の指導にあり、換言すれば世界人類の努力の歸趣する所は共同的に文明の進步を計り、相互的に幸福を增進する事にあらざるべからず。此の思想は、或る意味に於いて深き根底を有するものと云ふべし。般鑑遠からず獨逸にあり、殊に平和維持のために過去一世紀間信奉せられたる權力平衡の主義が近く葬り去られ、新たに國際聯盟の思想が時代精神として之に代らんとしつゝある際にあり、前者が列國競爭の觀念を前提とせるに反し、國際聯盟の思想は列國和親をその前提となせり。かゝる時勢に於て餘り偏れる敎育の方針は出來る丈け之れを避くる方永遠の利益にはあらざるなきか。上海に於て殊に然るが如く感ぜらるゝなり。

（完）

附錄三　上海に於ける日本語の普及

日本の文明を了解せしむる爲めに、上海に於て支那人に日本語を敎ゆる事の必要なるは一昨年元旦の上海日報紙上にて述べ、更に昨年は各國の語學普及に努力しつゝあるを述べたる事あり。外國人が未開國に來りて事業をなし、自己の勢力を張らんとする際は先づ必ず自國語の普及に思ひを致す事を常とし、支那に於いても英、米、佛を始め戰前の獨逸等皆共に努力する所なり。日本人も最近支那に於て事業を開始するもの著るしく增加したる故、日本語を普及することの必要を殊更に痛感する次第なり。之に就て今年は一昨年及昨年の所論に一步を進めて論じて見たい。即ち此度は單に支那人間に普及を計るのみならず、上海に在留する外國人間にも日本語を傳播せん事の希望を述べ、同時にその實行方法につきて研究したいと思ふ。此事は余は上海に於ける諸學校、公立並に私立の敎師、其の他敎育に携はる內外人士に屢々語りたる所なるが、上海に於ける學校は英語を主要語とする者は支那語を敎へ、又支那人の敎ゆる學校は外國語として

必ず英語を課す。然るに日本は一葦帶水の間にありながら、又日本人が二萬餘(領事館に登錄せられざる者を含む)も在留しながら、日本語が諸學校の課程中に重要視せられざるは如何、甚だ了解に苦しむ所なり。先頃も一外人に語りたる事あり、近來在留日本人の企業が勃興しつゝあるに從ひ、在留人口數が著るしく增加したるのみならず、其の質も亦大いに進歩したり。夫故に日本人、支那人、外國人の事務上、社交上相接觸する機會は益々頻繁に赴くべく、茲に於て日本人は外國人支那人を眞に了解するの必要生じ來ると共に、外國人、支那人もよく日本人を了解する事を要し、自然外國人、支那人自身が自分等の後繼者なる若き生徒達に日本語を敎ゆるの必要を自ら感ずるに至るべしと。その人は自分も然く考ふ、元來日本語は當上海に於て今少しく勢力があるべき筈なり、然るに日本人は外國語の研究に外國人が致す程の努力をせざると同時に、日本語を外國人間に擴むる事にも全然力を用ひずと、全く眞を穿てる心地す。日本人の支那に來れるものは支那語の研究を必要とし、又英語を覺ゆる事の必要なるは無論なるも、一方日本語を相手方の間に普及する事も多少努むべきに非ずや、余は東洋少くも當上海に於て、苟くも商業に携はるものは必ず知るを要すべき有力なる「ビジネスランゲーヂ」として日本語が行はるゝに至らん事を切望し、又同時に將來に於て斯くあるべきを信ずるものなり。而して日本語を支那人、外國人に敎ゆる方法二つありと思ふ。即ち(一)形象文字より敎ゆる方法と(二)音譜文字よりする方法なり。形象文字よりする方法は支那人を相手とする場合は是なる如くに見ゆ、則ち日本文字は文字そのものが支那人に親しみあり、又現今多くの支那新聞紙上に日本の熟語をその儘使用する事さへ流行す。然し元來形象文字はスピーキングとは甚だ離れ易く、支那人を相手とする場合と雖も實際上不便多しと思ふ。現に支那人中に於ても支那文字を子弟に敎ゆる事の困難を說き、音譜文字を主張するものさへあり。故にかゝる際此方法によることとは却て迂遠にして寧ろ成功覺束なし日本靑年の語學が同じく文字より入れる故に、何時まで經ちても語る事が不得手なるなり。されば外國人は勿論、支那人を敎ゆるにも音譜文字より入らしむる方法可なるべし。此の方法によれば廿六文字さへ覺ゆれば其の綴方によりて如何なる意味にても云ひ表はすを得べく、且つ支那人と雖もローマ字位は心得居るもの多し。況んや西洋人に於てをや。又ローマ字を採るとすれば、日本の羅馬字社システムによること可ならん。自分が日常の仕事を爲す上に於てさへ日本文

字によらずローマ字を用ひて、口より出づるに從ひタイプライターに移す事とせば、現在使用のスタッフの半數を減ずる事を得るのみならず、自分の考へを一層精確に、一層迅速に表はす事を得べし。之れを新規に文字を學び、假名を學び、而して始めて日本語を解するに至る勞と時とを考ふるに於てをや。羅馬字によるとなれば語學に得意なる外國人、支那人は一ヶ月も勉強すれば相當なる効果を擧げ得べし。故に日本語のローマ字々典を普及し、又上海に於けるパブリック、スクール其他支那人の小、中學校等の必須課目中に日本語を入れ、前述の日本羅馬字社システムにより傳播を計れば比較的容易に可なりの成功を收むるを得べし。以上は實行問題として、教育に關與する專門家諸賢の前に一案として呈する次第なり。

（完）

附錄四　支那に於ける列强と其教育事業

第一章　序論

列國が對支政策上各勢力範圍を定めて支那を分割せんとの方針を捨てゝより、列國政治家は先づ支那に於ける自國の勢力を確立し、其の廣大なる領土に自國商工業の販路を確保せん事に留意し、之が爲めに先づ自國人の教師、自國人の學校、自國の教育法を施して支那人を教育し、以て其の目的を達する事に着眼した。モーリス、グーラン教授は其の著書に於て、支那にて教育事業を行ふことは其の國民にとりて利益なること勿論なり、第一に其の國民勢力の膨脹を來し、次いで商工業上具体的の利益を克ち得べしとて、從來より東洋に於ける佛國勢力の源泉にして、今尚ほ其の勢力を持續しつゝあるベイルート大學の事蹟を引例せり。教育政策に依る勢力競爭上列國が、即ち政府當局者を初め民間實業家が果して如何なる方策を採りしや、以下順を追ふて研究せんと欲す。

列國の支那に於ける勢力扶植に敎育政策を施したる最初の企畫は宗敎學校の設立に端を發す。支那に於ける外國人建設の主なる學校は、其の初め宗敎の敎義を修得せしむるを目的とし、事實上舊敎幷に新敎僧侶の事業に過ぎずして、列國政府當局及び關係當事者は是等既存の學校を補助し、發達改善せしむるの策を採るに止まりしが、後年支那人が歐洲の進歩せる科學を研究せんとの希望を懷くに至り、是等宗敎學校の外に支那諸都市に於て宗敎々育を主たる目的とせず、歐洲文學、科學、哲學、醫學、法律學等を敎育する大規模の學校を、同じく新舊僧侶に依りて建設せらるゝに至つた。各國政府が既存の諸學校を利用し、之を補助發達せしめんとするは極めて自然の事にして、殊に近年獨、英、米が或種の敎育機關に維持資金を與へ、之が爲めに該事項に關する豫算支出額の從來より多大になりしは疑ふ可からざる事實である。政府の補助に就いて序に述ぶべきは上海、天津、漢口等の租界に於て、居留地の市廳其他の官署より支那人の爲めに設けられたる學校に對し、未だ補助を與へられたる例あるを聞かざると同時に、又市自身が市の費用を以て支那人に對する學校を設立維持したる事あるを知らず、實に是等が全然市の事業に非らざりしを證明する好個の消息である。

第二節　米國

米國は支那に於ける列國の高等敎育に最たるものにして、卽ち北京大學、文大學、南京大學、蘇州大學等悉く純然たる米國人經營に係り、又上海のセントジョージ大學、湘潭基督敎大學、西部支那統合大學等は各新敎僧侶に依りて建設せられたるものなれども仍ほ米國流に支配せらる。最近在北京の米國商務官ジュリアス、アーノルド氏は、現に三千以上の米國新敎僧侶は支那を巡遊しつゝあり、支那に於て米國を代表する者は正に彼等なりと言へり。宗敎家の經營する敎育幷に醫療事業の四分の三は米國宣敎師の手に依りて行はれ、是等事業は現實に盛大を極め、米國派に屬する男子のみならず、婦人も亦此の高等敎養の事業に携はり而して是等宗敎的事業の爲めに每年米國より支那に送付する資金は實に六百萬弗を超ゆると云ふ。茲に米國の爲したる補助金交附、其の他の保護、助成に就いて一層具體的に述ぶれば、ペンシルバニアの基督敎團が廣東の醫科大學を建設したるを初めとし、費府及びバルチモーアの敎授連幷に上流階級の有志者より

成る一團體は土地購入の爲めに金五千弗、病院建設の爲めに金一萬弗幷に補助年額金一萬二千弗の醵出を保証せる事あり。又二年前には彼の富豪ロック、フエラーは支那に於ける醫學の進歩に資する爲めに金一億弗を醵出して特別委員會に委託し、同委員會の提議に基き既存の新教派の濟醫學校の維持改善を圖ると共に、別に歐米に劣らざる大規模の醫學校二三を新設するに決したり。又南京大學は其の語學科新設費として金三萬弗を米國人組織の「大學の友」なる會より寄附せられ、尙ほ米國著名の天文學用機械製造業者アン、フロイズ、スワシーは諸科學研究室の費用三萬五千弗を寄附したり。

斯くの如く米國人は教育事業に依りて、自國文明の勢力を支那に普及し、以て經濟關係の益々親密に赴かん事を圖り、而して米國政府と雖も此の種の傾向の增加と事業の發展に力を盡すは吝ならざる處にして、前掲諸大學輩出の支那學生に其の免狀を承認するに何等躊躇せざるが如き極めて見易き事柄に屬す。然れども米國政府の主なる事業と云へば勿論支那留學生の自國吸收に在りて、一八七二年以來米國は若干の支那留學生の招致に努め、最初は支那政府の費用を以て派遣せられたるものに過ぎざりしが、一九〇八年內閣書記官ジョン、ヘイが支那青年に米國留學の機運を實際的に助成せしむるべしとの條件の下に、義和團事件賠償金の全部を免除し、其を以て米國留學生の諸費用に充當せん事を提議決定するに及びて、支那留學生の數は逐年異常なる增加を來し、一九〇九年に四十七人に過ぎざりし留學生數は千百七十人の多きを算するに至り、目下太平洋岸より太西洋岸に至る殆んど總ての各大學に支那學生を見、其大部分は各專門學校、技師養成を目的とする學校、其の他工藝、機械等の學校に籍を置く現狀に在り。

米國に於ける是等青年は試驗官の免狀を有するにも拘はらず、學事を捨てゝ安逸を貪り、享樂を事とし、一度支那に歸れば忽ちに重要の地位を占むるを常として、或る者は醫師と爲り、或る者は官立學校の教授と爲り、或る者は技師と爲り斯くて能く礦山を研究し、鐵道を建設するが、彼の順天裕氏が京張鐵道の敷設を指導し、現に廣漢線を司掌せるが如き其の一例である。近年支那が鐵道材料の供給を米國に仰ぎ、且つ又大企業は其の資本を米國に俟つに至れるも、即ち支那人技師の米國を知り、米國人に知己を有する結果にして、事茲に至れるは米國の對支教育事業が與つて力ありと云ふべし。

第三節　英國

英國の新教僧侶は米國僧侶團の如く其の背後に財的後援を有せず、從つて英國の支那人教育は米國の夫と大に越きを異にす。余は前に支那に於ける米國人經營の諸大學を引例し、其の若干が建設に際して他國の僧侶が之に協力を與へ或る程度に於て之を左右し得る事を附言したるが、英國宗教家が之に與れるは勿論也、然れ共英國の各新教々會の報告に依れば、彼等の經營するは大學に非ずして寧ろ汕頭、福州、上海、天津、芝罘等に於けるが如く、中等學校卽ち英文高等學校若くは中學校を多しとす。英國の各地領事館は是等を保護奬勵すと雖も、本國政府は近年に至るまで支那人の爲めにする教育事業に染手するの意志を有せず又民間に於ても同樣にして何等興味を有せざりしが如く、數年前ロード、ウィリヤム、カスコイン、セシル師を總裁に戴ける劍橋、牛莊大學の卒業生より成る一團が、支那に於ける英國の模範的教育事業として最大、最善の一大學を漢口に建設せんと發案し、資本家に慫慂する所ありしが、資本家側は是に對し極めて冷淡なりし爲め、折角の發案も頓挫を來せし事あり。香港の英領殖民地自身も最近迄中等教育をさへ、其の領内の支那人に與へんとはせざりき。支那青年にして歐洲科學を修めんと欲するものは僅かに「クインカレッヂ」の教育に滿足するの外なく大學程度の學問を爲すには、英本國若くは米國に留學するを要したり。

曾て一九〇八年、香港知事サー、フレデリック、ルガードは植民地幷に南方支那人の爲めに一大學の建設を志したるも、植民地の財源は斯かる事業の爲めに豫算の膨脹する事を許さゞりしが故に、香港居留民の寄附に訴へたる所、非常なる成功を示し、卽ち モーデイより二十八萬五千弗の寄附を最先として、一九〇九年中に植民地居留民幷に廣東の支那人より約金百二十五萬弗の寄附金應募者を得たり。於是植民地當局者は將來香港が南方支那に於ける知識の淵叢となるべきを思ひ、一千人の學生を收容するに足る講堂、實驗室を設備するに決し、又五百の學生を宿泊せしめ得る宿舍を建設したり。三年後に於て大學受驗者は彼等の豫想以上の多數に上り、一九一五年には香港に住居を有する大學生二百餘人を算するに至れり。而して學校經營者にとりて最も都合好き事は、是等の學生は多く支那内地の各方面より遊學せる故に、彼等は少くも一年一回歸省し、其の際に

鄉黨に大學の生活、勉學の模樣を語り、新らしき學生を誘引し來るに在り。香港大學の特徴は所在國籍、所在宗教の學生が各醫科、土木科、文科の三分科中自己の好む所に從ひて自由に修學し得る事と、設備完全せる多數の實驗室を有する事にして、又構内の發電所は學生の宿舍幷に實驗室に供給するに充分にして、尙ほ油瓦斯に關する九種の異式の研究用機械を有する耳ならず、多くの蒸氣信罐を備ふ。而して一の大工場には最新式の諸機械を以て充滿され、電氣機械の實驗室には二十種以上の發動機ダイナモ据付けらる。教師は經驗あり、資格ある人々のみにして、大部分は倫敦大學卒業生を以て占め、他は李浦又はバーミングカム大學の出身なり。本大學は全然倫敦大學と同一程度に在り、其の卒業證書は英國に於て「メトロポール」の卒業證書と同樣に認めらる。從つて本大學の免狀を有する者は醫師にせよ、技師にせよ別段の試驗を要する事なく、英本國幷に其の植民地に於て開業するを得。本大學が東洋に於ける第一の大學たるべく豫期せられ、殊に南方支那學界に揮ひつゝある學術的勢力の偉大さは一般に認めらるゝ處なり。

第四節　獨逸

獨逸が支那に指を染めしは一八九七年青島嚴頭に旗飜したるに起端を發し爾來可及的努力を以て獨逸語の普及、獨逸主義の傳播に熱中したり。一九〇〇年の擾亂以前殊に其の後兩三年に亘りて、政府の聲援の下に多數の獨逸人教授は諸學校、就中北京、天津、濟南、南京等の陸軍諸學校に招聘教鞭を取るに至り、又獨逸國務大臣レックス伯は支那諸學校の課程中に獨逸語を加へる事に成功せり。雖然も獨逸は尙ほ之にて滿足する能はず、實際上の目的を達成せんが爲めに、又支那指導の勢力を確保するの必要上、支那青年に普通教育を施す諸學校若くは諸專門學校を設立し、將來是等諸學校を大學に發達せしめん事に熱心せり。一九〇〇年には汕頭に一獨逸學校を創設したり、之れ後の支獨學校の前身にして、同時代に廣東に建設したる一校も同樣の變遷を經て支獨學校となりたるが、一九一四年には獨逸帝國總理大臣に對して五千馬克の補助金を要求せり。而して以上の如き諸學校の建設維持を見たる所以は一に其方針が組織的なりしと、獨逸膨

脹政策と一致するを得たるが故なり。獨逸官民は更に第一流の學術的機關二個を設くる事となれり。即ち一は青島の支那人高等學校にして、他の一は上海の獨逸醫學校幷に工業專門學校なり。一九〇九年青島に於ける高等學校の創立は實に百萬馬克以上の巨費を投じたるものにして、Kiautchou政府、獨逸政府幷に支那政府に其の財源を覓めたり。當時學生は支那の諸官立學校及び成都、廣東の獨逸諸校より集り來り、一九一四年八月閉校當時は三百名内外の學生を收容し居たりしが、更に當時組織を擴張し、五百の學生を收容するに足る設備を爲さんため帝國政府より其の經費を補助せられんとしつゝありしなり。上海に於ける獨逸學校に關しては、エル、エル、ペ―パ―、ゼスイットの「支那學校敎育評論」なる雜誌に於て詳說しあれば左に抄錄せん。

此の學校は近年の創設に係れ共、設立後數年にして支那に於ける外國人經營の諸敎育機關中最も異彩を放つに至れり。現在の學校は初め在上海獨逸總領事クナップ博士の慫慂に依り、一九〇七年獨逸のコッペル氏基金幷に伯林の獨亞科學研究會委員會の據出に依る七萬馬克を資金として建設せられたるものにして、當初上海居住の獨逸醫師に管理を託せられたりしが、後幾何もなくして本國より數名の醫師を迎ふるに至り、更に其後に及んでポーラン博士の曾て設立したる病院に合併したり。本校開始せらるゝや獨逸に於て有力なる後援者を見出し、即ち諸大臣は熱心に大學團に推奬する處あり、又對支關係の實業家は圖書及び醫學幷に自然科學に關する專門的著述の一大文庫を寄贈し、機械製造業者は外科用治療器械一切を寄附せり。クルッ博士は曾つて彼等が形態學に關する材料蒐集を完成するに、伯林グライスウオールド。ハール。ケニスグスベルグ。キエル。ブレスローマルブルグ。メエンステル等の諸大學より如何に助成を受けしやに就て語りたる事ありしが、支那自身に於ても北京政府は之に學生を送る事に努めたり。一九一二年に至り工業學校は此の醫學校に合併せられたり。本校は獨逸の專門學校としては最も早く創立せられたるものにして、本校の爲に特に「支那に於ける獨逸諸專門學者の敎育に關する研究會」なる會合に依りて計畫せられたるものにして、同一型の學校は漢口、天津、廣東にも設置せらるゝ事となれり經濟的見地より從來醫學校に入學する豫備課程として用ひられ居たる上海の獨逸語學校を、工業學校の爲めにも利用せんとし、獨亞協會の獨逸文明普及委員會と此點に關し契約を取交はす所ありたるが、此の契約締結後前掲二箇の會は

各獨立して資本金も各別に分割せられ、唯だ財政的事項に關しては醫學校幷に工業學校は一評議員會の共同管理の下に統一する事となり、又語學校の費用は工業學校一對醫學校二の割合を以て分擔せられたり。工業學校の建築は一九一二年の春の起工に係り、最新式設備を以て一九一四年六月二日其の落成式を擧行したり。工業學校の生徒は其の數に於て醫學校に劣らず、卽ち一九一五年三月には醫學校の二百三十九人(本科七七、豫備語學科一六二)に對して工業學校は二百人(本科七八、豫備語學科一二二)を有し、兩校を合して四百三十九人を算し、爾後兩校の收容生徒數は豫備語科を加へて約六百人に迄達したり。其の後獨支國交斷絶に依り閉鎖したる當時は學生五百七十人を算し、豫備科の獨逸人教師は十五人、醫科本科十二人、工科本科十三人の教師を有し、此の外數人の支那人教師教鞭を取り居たり。

前記の如く本校は非常なる成功を示したるが、誰人と雖も本記事を注意して讀みたる者は其の原由する處を了知するを得べし。第一に本校は其の設立に當り、人學生の人氣を作る爲めに金も教授も最良の機械を設備するにも吝ならざりし事、第二に教育設備充分なる爲に學生は實際的練習を爲す事を得、眞の醫師たり、或は技師として養成せられたる事、第三は獨逸本國の後援を得、補助金を得たる耳ならず、支那政府との關係を連結して同政府より學生を送り、其の費用として毎月八千弗の支給を受け居たる事が其の成功の要因ならざる可からず。此の成功、此の獨逸學校の旺盛なる經營振りが一般に知らるゝに至り、彼の米國の「ロックフェラー」委員會の會員をして頗る驚愕せしめ、而して同委員會は數箇月の後彼等の經營に係る諸醫學校を獨逸の方法に依りて設備する事に決したり。獨逸は斯くの如く其の教育事業に成功し、其の盛大を誇る域に達しながら尙ほ之れにて滿足する能はず、更に獨逸文明の普及に與つて力ある宗教的機關の總てに財政的援助を與へ、之を支持せん事に努めたり。卽ち一九一三年大赦祭に際し、全獨逸人は其の植民地若くは海外諸國に於ける自國人の宗教的事業の爲めに六百萬法(馬克?)を據出し、而して同年十二月九日下院にて認められたる一委員會は各教會間に之を分配するの任を委託せられ、且つ同一目的卽ち獨逸文明の普及を圖る宗教事業の保護助成の爲めに、新しき基金募集の任に當らしめたり。右の基金は大部分を新教々會に寄與せられたれども、舊教徒も自ら運動し、新教との勢力均衡を保たんが爲めに努力を爲したるが、新舊兩教共に要するに獨

逸主義の目的に向つて猛進せんとするものに外ならず。斯くてシュミドリン僧正は支那を遊歷して獨逸勢力扶植の最善の方法に付き研究報告を爲す費用を政府より得て、彼は眞の使命たる獨逸語の普及幷に獨逸文明を傳播する目的を表面に掲げず、恰も新教徒が建てたる諸學術的機關を危くするが如く裝ひ、支那に來るや直ちに支那各地に散在する僧侶若くは其の代表者を招集して、支那に於ける宗教團にて高等學校幷に大學を建設する爲めに其の財源を提供せん事を告げたり。即ち財源は支那の教育事業に關して、全舊教徒に關係ある諸事項を管掌すべき一委員會より支出し、教育に携はる教授連は獨逸本國より派遣する事とせり。僧正の此の提議は喜ばれず、宗教團は支那に教育事業を興し、之を維持し行く爲めに基督教徒より補助金を受くるに就ては贊意を表したりしが、教授の選擇權を宗教團に保留し、且つ學生をして國家的觀念を失はざらしめん爲めに、高等教育に於ては必ず支那語を使用すべき事を決議したり。之は一の失敗なりしも、然し全獨逸人が如何に支那の學校を獨逸化せんと努めつゝありしかを證するに餘りあり。吾人は他の一方に於て獨逸帝國の一九一四年度豫算に、海外に在る獨逸學校の爲めに百五十萬馬克を計出し、一九一四年の當初漢口に技術工藝學校設立案を議決し、既に全ての計畫成り、伯林の特別委員會の承認を得るのみになり居たるを聞けり。

第五節　佛蘭西

支那に於ける高等教育に米國新教徒が最も與つて力あるは第一に注意す可き事なれ共、財源貧弱なるに拘はらず、支那に於ける小學校の大多數を維持し居れるは舊教徒にして、現に彼等は九千以上の小學校を維持經營し、九十萬以上の生徒を教育しつゝあり。而して此の九千校の中六千餘校は佛蘭西宗教家の事業に係り、而も元來之れ以上に增加すべかりしを財源の缺乏に因つて礙げられたるものなり。十五年前モーリス、グーラン氏は其著書に於て、舊教宗教團は財源の貧弱なるに拘はらず、新教徒より一層諸事に力を盡せるより、後者に比して一段の好結果を得たり、彼等は此の世紀間に於て宗教的若くは國家的勢力扶植の爲めに、教育の必要缺ぐ可からざる所以をよく了解し、一八六〇年北京に於ける法王代表者ムーリ僧正は佛支共同經營の一學校を建て、佛蘭西語を以て西洋科學

を支那青年に教授せんとの志望を抱き、一八六一年巴里に赴き、佛國政府の財政的補助を受けんと試み成功せざりしも、而も尙ほ屈せず計畫の實現に努め、專門教授二人を支那に送り、其の一人は後年自然科學の研究家を以て有名になりたるタヴイド僧正なりしが遂に失敗に終り、數年後には南潭の佛語學校も消滅するに至り、一八七〇年以後デラブラス僧正は先人の計畫を再燃し實行に着手したるも、外部の援助なかりし爲め又失敗を重ねしが、是等繰返されたる努力は總て宗教團の費用にて爲されたるものなり。第三次の計畫も同じく宗教團之に參與せり、卽ち一八八八年タグリアビュ僧正は前記南潭學校に於て極めて小規模の佛語教授を初め、漸次に教授の範圍を推擴して算術、地理其の他西洋科學を佛語にて教授するに至れり。一八九〇年及び一八九一年は此の事業に最も光輝ある年にして、從來他の援助を求めずして單獨に活動したるに、此の間はマリスト兄弟を教授として新たに迎ゆる事となれり。北京に於ける南潭學校の爲めに繰返される努力は亦地方に於ける佛支學校の爲めにも行はれたり。殊に一九〇〇年以後宗教家が上海、寧波、芝罘、鎭江、敍州、汕頭、桂林及び南寧等の諸地方都會に建設したる佛蘭西學校に就て見らるゝなり。卽ち是等諸學校の費用は宗教團の財源のみに仰ぐ可く餘りに巨額に過ぐるの結果、幾年も經ざる間に閉校するの餘儀なき窮情に陷れり。雖然も支那に於ける學校にして佛語の課程を有するものは矢張り宗教學校にして、是等の中には甚だ大なる成功を贏へたるものもあり徐家匯の聖イグナ―ス學校、曉星學校寄宿舍(之は四河涯のサンモ―ユ―と同樣中等教育を受けんとする支那女學生の爲め設けられたるもの也)其他廣東に聖心學院あり、ピ―ピ―ゼスイット教派の事業として他に算ふべきものは卽ちオロ―ル大學にして、一九〇六年以來逐年發達を示し、將來支那に於ける佛蘭西勢力の一大中心たらんとしつゝあり。佛語普及と無關係なべるき宗教家に是等事業の經費を負擔せしむる事は妥當に非ざるも、而も上述の如き諸事業に從事する宗教家が他より何等の補助を受け居らざるは如何、吾人は佛蘭西の大實業家にして、米國實業家の如く支那に實業學校を興し、之を保護しつゝあるを見ず、佛國全般の注意は東洋の諸學校教育の上に注がれ居らんも、未だ支那に於て佛蘭西人の爲すべき事業の在るを知らざる也。又佛國政府は支那に於ける自國人の事業を保護せず、支那駐在の佛國外交官は疑もなく、支那人教育の爲めに佛支學校を建設するの絕對的必要なる所以を了解し、本國政府に是等の保護援助を要

求したれども、不幸にして左程に政府の注意を喚起する能はざりき。僅かに外務省は僧醫を成都に派遣し、幾何もなく陸軍醫學校を建て、公認醫師なる資格を有する陸軍々醫の養成を開始したり。而して支那政府が天津に陸軍醫學校を創設したる時、其の外國人教師の椅子は全部佛蘭西醫師を以て占有せし事は在支佛國外交官の一成功なりき。又同國外交官の甚大なる努力によりベルトレット僧正幷にシャネ僧正の虐殺事件に對し、支那政府より受領すべき償金の一部を學校新設の爲めに使用する認許を得て、龍川の廣西學校幷に廣東のピション學校二校を建設したり。同時に印度支那政府も學校設立に努むる處あり、一九〇五年ペードーメル氏は其の著に於て「余は支那に在りて、其の國民の爲めに佛蘭西の學校、治療所幷に病院を設置せん事に努め、其の結果現今廣西、浦口、廣東、海口、龍川雲南等に印度支那政府單獨の手によりて建設せられたる諸學校を見るに至れり。世人は廣東の佛蘭西病院に余の名を冠らせたり。該病院の設置に關しては支那富豪の助力に俟ちし事大なりき。其後廣東の此の病院には一の佛蘭西醫學校合併せられ約五十名の醫學生の通學を見るに至れり」と。

斯くの如く佛蘭西も單に佛語普及に止まらず、佛蘭西文明の傳播を圖り、支那人をして之を了解せしめんとするの方針を定めたるが如きも、然し惜しむ可き事には此等の事業は維持繼續せられずして終りたり。印度支那政府に於けるドーメル氏の後任者は氏程に學校政策による侵略政策の重要なる事を解せざりし結果、佛蘭西學校の補助金下附を廢止するに及びて、是等諸學校中よく維持を圖り、現在存立せるは僅かに浦口、海口の佛蘭西語學校幷に廣東、汕頭の醫學校のみとなれり。以上は一九一四年に至る間の概略なり。

其後本國政府は復び教育の發達に留意し來れるが如く、一九一四年の初頭に於てヴィンサン博士の支那に於ける獨逸教育幷に獨逸勢力に對抗する爲めに佛蘭西の爲すべき施設に關する報告は本國議會を幾分動かす事を得、上海に在るオーロール大學に醫科を增設する爲に二萬五千法の經費支出を議決したり同年七月路透電報に依れば、フレデット氏は眞に醫科大學を建設せん爲めに一箇年間、教授たるべき相當の醫師を傭聘する補助金として、二萬五千法は餘りに過少なる事を議會に於て提唱したりと云ふ。他方印度支那政府も亦前にドーメル氏の採りし政策を再び用ひんとしたる如く、即ち未だ手續上の認可決定を見ざりしに拘はらず、印度支那の醫學校を支那人學生に對し開放せんとしつゝあ

りたるが、吾人は印度支那政府に向ひて、支那人の爲めに大々的に其等の諸學校を開放せん事を希望する者にして、更に支那學生に無料寄宿の恩典を與へ、必要起りたる時は幾何かの日常經費を支給せん事を望む。天津幷に廣東の醫學校には各二口の奬學資金を有せるが、之れ學校に於て純然たる專門的研究を爲さんとするものゝ爲めに一年間の資金を貸與するものなり。

第六節　結論

以上吾人は列强諸國が支那に於て敎育事業の爲めに致しつゝある努力の大體を觀察して、亞米利加幷に獨逸國民が其の中央政府と共に、支那に於ける敎育事業の價値をよく理解せる事を知りたり。即ち彼等の敎育機關に依りて敎養陶冶せられたる學生は、其の國々の生產品を了知し居るが故に、彼等は平常其の親しみある物品に注文を發するに至るは當然にして、英國の對支商業的優越權が約二十年前より確保せられ居るは此の理由と事情に因るが如し。即ち香港大學は英國勢力の一中心にして、而かも此の一大學のみを以て支那に於ける英國の勢力を維持するに足らずとして、同國實業家は一九一四年の初め、商業會議所を介してロイドジョージ氏幷にエドワードグレイ卿に宛て、更に一個の新大學を支那に設置する事の絕對的必要なる事の覺書を提出したり。茲に事實を明かして注意を喚起すべき事は、即ち吾が佛蘭西の政策は前陳の如くにして、高遠なる見解と遠大なる理想を有し居らざる嫌ある事是れなり。佛國政府幷に印度支那政府が單に商人の爲めに通譯を供給し、商取引の便宜を得せしむる目的を以て佛語の普及を圖るに止まりしは、餘りに直接的結果を得ん事に齷齪したるものと云ふべし。然し思考の仕樣に依りては尙ほ其處に一の賞讃すべき目的を存するに相異なし、即ち佛蘭西學校に通學する生徒は一の新しき求職上の便宜、換言すれば學校が職業紹介を爲し呉れるものにして、之が爲めに支那の學生は非常に實際的の目的に向つて進みたり。

佛蘭西と白耳義との共同經營の下に北京漢口線幷にpieno線が開設せられたるが、即ち支那人は通譯の必要なるより、佛蘭西諸學校は生徒の充溢を招來したるものにして、之れ佛語を解する者の爲めに一の就職口を與へたるものにして、之れ佛語を解する者の爲めに一の就職口を與へたる也。其の後も是等諸學校は多數の生徒を收容して校舍を充滿したるが、之は支

那の郵便事業を一佛人の手によりて統轄せんとして激烈なる運動をなしたるが爲めにして、併し當時佛國が勢力發展上一大障礙たりし事は、英國は既に稅關に其の勢力の深き根底を据へ付け、郵便は近時まで其の事業の一部分となり居たる事也。此より以後吾が在支學校は一百以上の數を數ふるに至り、而も此數字は漸次增加し來り、蘭州、海門間の鐵道が佛白シンジゲートの事業となり中法實業銀行は之が成都、大同府線幷に浦口、常德、成都線の敷設權を獲得したる爲に、佛語を知る支那人に求職上の一大捌け口を與へたる結果に外ならず。現在に於ては此の民間企業の補助的必要機關なる學校を保護助成する事は從來よりも更に必要なるべし。之に就てビアード、ドーネット氏が最近發表せる言說を引用せんに、曰く「寧ろ樂觀的なる公の報告に就いて見るも、尙ほ是等敎育機關の如何に必要なるかを知るべく、又是等機關の爲めに財源の缺乏、適當なる敎授を選擇するの困難、其の他佛蘭西と競爭的地位に在る諸國との軋轢等種々なる障碍横はれる事明かなるべし」と。雖然吾が佛蘭西學校に於て僅かに通譯を養成せんとせば、我が勢力發展上餘り不充分にして、効果大ならざるべく、如何にしても支那靑年に我が工業、我が文學、我が文明を敎授する事に努め、完全に佛蘭西的に養成する事絕對に必要也。茲に於て吾人は競爭國の事例に倣ひて工業學校を建て、支那學生をして佛蘭西の機械學を實地に研究せしむる事を要す。同樣に又他の專門學校を設置する事も必要なり。支那が何物を必要とするやを研究に來りし專門家の意見に從つて、如何なる專門學校を建設すべきやを知り得べし。水力水運に關する學校も可なり、森林學校、農業學校も必要なるべし。殊に支那には速かに發達せしむるを要する二個の產業あり、即ち綿絲紡織業を支那人生產者に充分傳授すべき事と、絹絲製造に必要なる養蠶業の二なり。絹絲國としての支那は最も良き繭を產出せざる可からず、而して夫が爲めには佛蘭西の養繭法を敎授する必要あり。之に關して吾人はヴイエイル氏が上海に養蠶學會を建設し、無錫、紹興安慶地方と夫々連絡し、斯業の發達に資せん事を提議したるを悅ぶものなり。

佛蘭西は既にエル、エル、バーペー、ゼスイトに依りて建てられたる文學、科學、法律の大學としてオロール大學を有するものなれば、吾人は之が發達を圖れば足る。吾人はゼスイトが他の協力を容るゝに充分なる雅量と愛國心あるを知るを以て、將來之を吾が勢力の一大中心たらしめん事を欲する也。されど吾人は更に一醫科大學の必要を感ず。曾つてポールベール氏の云へる如く、支那に於て最も

効果多きは醫學教育にして、醫師の援助の下に吾人は人道上の慈善事業を爲すと同時に、又國家の爲めにも益する處大なる事業となすものなり。支那人は極東に於ける多くの外國人と同樣に、吾が佛蘭西醫師の價値を知り、佛醫は獨醫と相併びて第一流の位置に置かるゝ故に、我が佛人醫師が多數の學生を集むるには何等の困難を感ぜざるべく、而かも之が爲めに吾人が既に有する諸機關、即ち廣東、汕頭、上海オロール大學等の醫科を改善發達せしめ、之を利用すれば足るなり茲に於て吾人はビンセント博士の警告を茲に適用する事に躊躇せじ、即ち博士は曰へり「先づ初め佛國政府直轄の大學を建設する必要はオットマン帝國に於けるより、支那に於て一層強く感受するものなる事を提唱すると同時に、他の一方此の大學は全然支那人の管理の下に置く事の不可なるを附加せんとす。支那人は教育の目的を達する爲めに充分なる良教授、財源、能力を有するものに非ず扨て茲に兩政府即ち現在に於て其の協力を缺ぐべからざる兩勢力の中介たるべき人物を必要とし、而して吾人は此の兩勢力間の中介者、相互の代表者として宗教家より他に適任者あるを知らず、是等宗教家は遠く一八四〇年代より既に地盤を有し居るを以て、之を利用する事は最も策を得たるものなるを疑はず、且つ宗教家は植民地の官吏、醫師、海運業者其の他大學建設の爲めに政府が派遣し得べき總ての者よりも、住居の優越、生活の安定、其の國の言語幷に風俗を了解せるの點に於て遙かに優れるが故に、新しき施設を爲さんより、之を利用すれば教育事業の發達、變革によりて生起すべき諸種の弊害を避くるの利益を得べし。彼等は家族の煩累を有せず、尚ほ上海に於ては彼等は既に佛語、佛文學、西洋科學の學校、良教授、新式大規模の病院、大學等を有するが故に之を佛蘭西醫術の勢力發展の用に供する事を得べき也」と。又米國の例に倣ひて、支那學生を本國に招致する事も必要なり。支那政府が從來自國學生の佛蘭西に赴く事を餘り悅ばざりしは、畢竟其の留學生が革命的思想を輸入し來る故にして、之が爲めに支那政府は佛蘭西學校よりも寧ろルーバン大學を選みたるが、併し此の傾向には幸ひに反對するを得べし、即ち佛蘭西の國立大學に支那留學生を迎へずして、舊教の諸大學に入學せしむる方針を採る事なり。而して政府は是等大學の卒業免狀に對し國立大學のものと同等の價値を承認せざる可からず、之れ果して實行不可能なるか。吾人は支那に於ける我國勢力の增進に就いて採るべき各方針を大体述べ來りたるが、以下更に之を實現する爲めに採用すべき實行手段を論ぜんとす。

原則として吾人は無を以て何事をも爲すを得ず。大なる收獲を得ん爲めには多額の資金を要すべきは勿論にして、佛國政府は疑ひもなく、支那に於て佛蘭西の名に背むかざる丈けの地位を占めん事に努力しつゝありて、極東に於ける諸事業の爲めに豫算に計出せられたる額は、一八九七年には一萬法、一九〇五年には六萬法に過ぎざりしものが、現在に於ては二十萬法を計上するに至れり。雖然も元來此の數額を以てしても尙ほ僅少に過ぐ、而かも其の一部が日本に於ける事業費に用ひらるゝを思へば殊に爾く觀せらるゝ處にして、之を獨逸の支那に於ける敎育事業の爲め、議會の協贊を經たる補助金に比較しても然る也。されば豫算額を增加する事絕對に必要なるべく、又米國に倣ひ支那に於ける佛語學校を補助するの基金若くは佛蘭西大學其の他の學校に入學せんとする支那青年に對する奬學資金に充當する事を表明して、一九〇〇年の償金を支那政府に返還する事は不可能なりや、現に五箇年償金仕拂を停止しつゝあり、平和克復後交涉すべき一問題たるを失はざるべし。尙ほ又我が外交的代表者は佛蘭西の諸事業に於て、支那政府に利益を與へざる可からず、之は一面吾人の事業の爲めに一の安全なる保証たるべし。ビアールド、ドネット氏は最も注意すべき事は、佛蘭西にとりてのみ利益なる事業をなす弊に陷らざる事なり。勢力扶植なる觀念には一種の侵略的觀念を含むが故に、此の觀念の露骨なる表現を覆はんが爲めに、吾人の勢力扶植的事業は、其の對手國民との協同的開發事業なりと呼び、又爾く解するを穩當と認む。然しながら佛國政府が如何なる事業を爲し得るとするも、政府のみの手によりては其の効果の大を期するを得ず、般鑑遠からず獨逸に在り一九一四年の初め創立せられたる伯林の支獨研究會は製造業、開拓業、銀行業、海運業等の大會社の代表者を網羅し、支那人をして獨逸の科學、技藝の隆盛を知らしめ、且つ支那と獨逸との經濟關係を發達せしむるを目的とせるものにして、其の活動の結果は支那に於ける獨逸の商業學校、工業學校、醫學校等の設立を見たる也。若し我が製造業者、銀行家幷に貿易業者等が同樣の事業を開始せんと欲すれば、如何にして我が競爭者が採りたる方法を學ぶべきか。工業學校に製造業者は研究に必要なる機械を寄附せざるや、顯微鏡其他電氣用、外科醫術用等科學的機械製造業者は又我大學、醫科大學の所要機械を贈らざるや。佛蘭西及び支那に於ける我が商業會議所は奬學基金を設くる爲めに相當に寄附を爲す事を得べし。前例を揭ぐれば、支那に於ける我が主なる學校の敎授連は佛支學校或は其の

備　校の成蹟優等の生徒の爲めに二十口の奬學基金を設けたるが、此の基金は財政的援助になると同時に、一方各學校の學課を統一するに與つて力ありたり二三の奬學基金は、又以て同樣に是等主要學校の優良生徒若干を本國に送り、工場若くば電氣高等學校、土木學校、鑛業學校等の高級學校に留學せしむる事も、策なるべし。又我が實業家より相當の資金を醵出し、大學、醫科大學、工業學校等の講座の爲めに、講座基金を設くる事も一案ならん。吾人は支那に於て我が勢力の失墜し行くを見、又同胞の經營事業に關する數字の漸次減少しつゝあるを見て遺憾に堪へざる處なるが、就中吾人が最も悲しむべきは、支那に於て佛蘭西は第二流の國家の如く考へられつゝある事なり。吾人は啻に我が經濟上の利益のみならず、我が國旗に對する名譽の爲めに可及的努力を盡すの必要あり。吾人は知る、必ずや我が大製造業者、貿易業者其の他の實業家達が、吾人が前に統一を缺如し居たる爲めに失ひたる所を挽回すべく、一致協力して奮鬪すべき事を、如何となれば今や是等實業家は敎育に依るに非ざれば、支那に於て最大の成功は收め得難き事を了解したればも。

（完）

註に曰く、本編「支那に於ける列强と其敎育事業」は、距る大正六年末當上海に於て發行せらるゝ、唯一の佛字新聞「レコー、ドゥ、シーヌ」に掲載せられたるものにして、著書は之を基礎とし曾て一夕同攻會に於て「支那に於ける外國人の敎育事業」と題して講演したる事あり。列國の支那人敎育の大體を知るに恰好の小論文なるを以て、學友多久君に託し譯出して、本書に輯錄する事とせり。

大正八年一月三十日印刷
大正八年二月五日發行（非賣品）

著者　上海極司而路　伊吹山德司

印刷人　上海武昌路七十一號　中山榮造

印刷所　上海武昌路七十一號　上海經濟日報社

CL
NO. 24557

CL
NO. 24557

M. 66